

2017年度 年 報
—自己点検・評価報告書—

天使大学大学院助産研究科

はじめに

天使大学は、カトリック大学として建学の精神「愛をとおして真理へ」を掲げて教育・研究に当たってきました。2017年は学園創立70周年の記念の年に当たり、12月8日に記念式典・記念講演会・記念祝賀会を開催して、これまで本学園の歩みを支えて下さった関係者の皆様と神に感謝すると共に、これからの歩みの上に神の御導きを祈りました。

助産研究科では専門職大学院としてのこれまでの歩みを振り返り、将来への展望を切り開く必要があります、その在り方の検討を始めております。優れた臨床力を備え、また客観的に自己の力を批判的に吟味でき、より優れた高度専門職を目指す修了生を社会に送り出すためにはどのような在り方が適切か、教員組織、学生募集、臨地実習の在り方、市内の実習先確保、教育法の改善等のための臨床研究等々について多面的な検討を要します。

さて、本学の教員には、そのミッションに適う教育・研究活動を行っているか、所属する教育研究組織が適切に活動しているかについての自己吟味が求められます。そのために計画・実行した教育・研究活動について自らが評価して改善していくPDCAサイクルがあり、自己点検評価に関する方針・実施基準に基づきその実施・報告に関する事項を自己点検評価委員会が担っています。助産研究科のさらなる発展のために自己点検評価委員会が引き続き、本活動を熱心に推進されることを期待しております。

ここに2017年度年報をお届け申し上げます。学外関係者の皆様におかれましては、平素の本学の運営へのご理解、ご支援を深く感謝申し上げますと共に、本年報にお目を通し頂き、ご意見、ご批判を頂ければ幸いに存じます。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

2018年7月

天使大学
学長 武藏 学

自己点検・評価報告書

目 次

I. 教育課程	1
II. 院生の受け入れ	2
III. 教員組織	3
IV. 研究活動・研究環境	4
V. F D活動等	6
VI. 社会貢献	7
VII. 国際交流	11
VIII. 学生生活・就職支援	12
IX. 図書館	15
X. 情報処理システム	16
XI. 施設・設備	17
XII. 管理運営	18
XIII. 財務	19
XIV. 事務組織	20
XV. 自己点検・評価活動	21

I. 教育課程

担当：助産研究科教務委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新規実習病院の開拓 2. 実習担当教員のサポートシステムの構築 3. 実習評価表の改善
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. S病院を、1年次の実習（基礎実習Ⅱおよび統合実習Ⅰ）の施設として活用した。 札幌市内のS病院は、これまで臨時的（不定期、短期間）な実習施設として協力いただいていたが、今年度は各実習日程全般で実習することができた。次年度以降も実習施設として安定した活用ができるよう調整したい。 その他、次年度の院生の実習受入れを依頼する目的で、病院訪問を行った。 2. 統合実習Ⅰ（実習予定期間：12週間）では、実習病院2施設で2名の教員配置を行い、交代で実習指導を担当した。うち1施設は、市外であったことから、2週間程度で交代することにより、遠隔地に長期出張となる生活上の負担の軽減や、教員間で院生指導や実習評価について早い段階から情報共有できたことは良かった。 「実習担当教員のサポートシステムの構築」までは至らなかったが、今後も、遠隔地の実習施設に1人の教員が長期担当する負担や実習指導や評価をほぼ単独で行うことへのストレスが軽減できるよう改善していきたい。 3. 教員2名が高等教育センター主催のルーブリック評価研修会に出席した。統合実習Ⅰのルーブリック評価表の見直しを行った。昨年、同実習で活用した評価表について、長所および課題を整理し、実習目標の達成度との整合性、院生自身が客観的に自己評価できる文章表記を工夫した。これによって院生の自己評価と教員評価の差が、従前より縮小したと考える。 4. その他 <ol style="list-style-type: none"> 1) 「院生理解からはじまる効果的な学習指導」をテーマに、学内で教員研修を行った。 2) 臨床指導者FDを2回開催した。 <ol style="list-style-type: none"> ①想起の効用-出産のプロセスを振り返る意義-（8月25日、講師：和田サヨ子） ②学生理解のためのstorytelling-実習指導で伝わる教員・指導者の意識・無意識-（3月16日、講師：和田サヨ子） 3) アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの見直しを行った。 4) 学習ガイド（妊娠期・出産期・産褥新生児期の自己学習のためのモジュール）の見直し改訂を行った。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習病院の安定的な確保。 2. 教員の実習指導体制の見直しと検討 <ol style="list-style-type: none"> ①院生理解を基にした実習指導方法 ②遠隔地での長期にわたる実習指導体制のあり方 3. ルーブリック評価表の活用の拡大 1年次、2年次の他の実習評価においてもルーブリック評価表の活用を検討する。 4. カリキュラムの見直しと新カリキュラムの検討
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新規実習病院を1施設確保できたことは評価できる。院生の増加を視野に計画的開拓が必要ではないか。 2. 長期出張で指導を担当する教員の業務改善は重要なことである。一部改善がみられたが院生、施設、教員との連携も含めて早急にシステムの構築をしていただきたい。 3. 評価の表記を工夫して教員と院生の評価の差の改善があった点は評価できる。統合実習Ⅰ以外の科目においても取り入れて実施していただきたい。

II. 院生の受け入れ

担当：助産研究科 入試・広報委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 限られたマンパワー・予算の中で、「アドミッション・ポリシーに適った志願者」が増加するよう、広報効果の最大化を図る。</p> <p>2. 入試ミス防止に十分配慮するとともに、円滑で遺漏のない入学試験の実施・運営に万全を期する。</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 活動目標を達成するために行った活動と評価は以下のとおり。</p> <p>① 6月のミニオープンキャンパスを今年度から「第1回オープンキャンパス」とし、「体験型施設見学」を行うなど内容を充実した。参加者は24名（昨年度12名）と倍増した。また、8月のオープンキャンパスは土曜日開催から平日開催に変更したが、参加者数は26名（昨年度26名）と同数だった。高校生の参加者も複数名いた。</p> <p>② web サイトページについては、第2回オープンキャンパスの説明内容動画を掲載し、修了生インタビューを掲載した。大幅な内容の充実は行えなかった。</p> <p>③ 本学看護学科学生に対する学内説明会を実施した。</p> <p>④ 助産研究科ちらし・ポスター・パンフレット・学生募集要項を病院・看護大学等に一齐送付した。</p> <p>⑤ 「オープンキャンパスの開催」や「入学試験の出願開始」を告知するため、資料請求者等に対しメールマガジンを配信した（年4回）。</p> <p>⑥ 助産教育分野の募集状況から追加募集（2月入試）を行い、web サイトでの告知のほか、今年度の助産教育分野資料請求者や実習指導教員、助産師会、修了生のいる病院に学生募集要項資料を送付した。</p> <p>2. 推薦入学試験、前期試験（一般入学試験、社会人入学試験、助産教育分野入学試験）、後期試験（一般入学試験、助産教育分野入学試験）を実施した。試験前に入試・広報委員長による試験問題の最終チェックを行うなど入念に準備を進め、全体として円滑に入試業務を遂行した。なお、合否判定の際、合否判定基準の表現をより明確な文言に見直す必要があるとの意見が出された。</p>
<p>次年度への課題</p>	<p>1. 6月公開予定の web サイトリニューアルに向け、動画による紹介など、助産研究科の内容を充実させ、従来の内容の見直しを行う。その際、他の大学院との違い等訴求内容が伝わりやすいよう内容を工夫する。</p> <p>2. 魅力あるオープンキャンパスへの動員および出願者を増加させるため、オープンキャンパスの魅力あるコンテンツの検討（簡単な助産の体験学習等）を行う。</p> <p>3. 助産研究科広報資料について送付時期の早期化、送付先の検討、送付回数を充実させる。その際、看護系専門学校卒者の出願が可能であることも告知する。</p> <p>4. 天使大学 看護学科学生に対する広報活動を強化する。</p> <p>① 看護学科学生に向けた、授業公開や院生との交流会の実施を検討する。</p> <p>② 助産研究科パンフレット・ちらしを看護学科全学生に配布する。</p> <p>③ アッセンブリー・アワー等で「誕生」や「命」等のテーマで助産研究科教員が講話を行うことを学部に働きかける。</p> <p>④ 説明会では対象学年によって説明内容を変更する。</p> <p>5. 入試ミス防止に十分配慮するとともに、円滑で遺漏のない入学試験の実施・運営に万全を期する。また、よりアドミッション・ポリシーに適った院生を選抜できるよう、合否判定基準を見直す。</p>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>1. 多様な方法で広報が行われ、資料請求者が受験につながるように募集要項やメールマガジン等フォロー体制をつくり展開をしているのは評価できる。</p> <p>2. 本学のアドミッション・ポリシーに適った人材を確保するためには、本学の特徴を示し、他学との差別化を強調する広報が必要である。</p> <p>3. 一定の水準の入学生を確保するためにも基準の見直しを早急に行うことが望まれる。</p>

Ⅲ. 教員組織

担 当：助産研究科教務委員会（教務）

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員組織の強化（継続） 2. 院生の学習支援の強化（継続）
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今年度4月と5月から、特任教授1名、と助教2名が加わった。教員の平均年齢の若干の低下が図れた。また、助教2名が基礎分野と教育分野の修了生ということで、院生のレディネス把握が容易にされ、実習を含め学習指導体制の強化につながった。 更に来年度に向けて、授業担当と内容の見直しをしていく必要がある。 2. 院生への効果的な学習支援の方略として少人数による、メンター制や実習体制を組んでいる。しかし、昨今、学習困難者が目立ってきていることから、院生の個別性に合わせて、合理的配慮をしながらの支援を強化していくことが課題である。また、学習支援上の問題解決にあたり、教員間のコミュニケーションの機会を多く設けていく必要がある。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員組織の強化（継続） 2. 院生の学習支援の強化（継続）
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門職大学院には、実践と理論の架橋が求められており、教育法の改善等のための臨床研究の成果発表が求められる。(学長) 2. 臨地実習の在り方について、その期間、臨床教授等の配置、札幌市内の実習先病院の新規開拓等について、さらなる検討が必要である。(学長) 3. 個々の学生に合わせた学習支援の方策について更なる検討が望まれる。

IV. 研究活動・研究環境

担 当： 学術振興委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 科研費等競争的外部資金獲得のための講習会を企画する。 2. 紀要第 18 巻(第 1 号・第 2 号)を発刊する。 3. 特別研究費の研究報告会を実施する。 4. 若手研究者育成のための具体的方策を検討する。 5. 2015 年度の委員長提言について今後も引き続き要請を行ってゆく。
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今年度の科研費採択数は新規 1 件、継続 3 件であった。申請件数は計 16 件。 科研費獲得のための講習会を 2017 年 7 月 26 日(水)に開催し、科研費採択審査委員経験者である札幌学院大学の室橋春光教授に講師をお願いした。参加者は 27 名。 今後、年 2 回は開催できるよう、企画及び準備を進めることとした。 2. 紀要は、第 18 巻の第 1 号及び第 2 号を発刊した。投稿者が減少していることについては、春休みや夏休み期間を執筆期間とできるよう、募集時期を調整し、第 19 巻より年 2 回の投稿締切日を 4 月末と 10 月末に改めた。 3. 研究報告会は 2018 年 3 月 16 日(金)に特別研究費による報告 4 件を行った。今後は特別研究費による研究報告は本学紀要に投稿して公表するよう促したい。 4. 若手研究者からの多様な質問に応じることができるような相談体制（よろず相談）を実践した。 5. 研究指導者と若手研究者の研究指導体制を構築する提言を委員会として今後行っていく必要があることが確認された。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 科研費等競争的外部資金獲得のための講習会を企画する。 2. 紀要第 19 巻(第 1 号・第 2 号)を発刊する。 3. 特別研究費の研究報告会を開催し、発表後の本学紀要への投稿を促す。 4. 研究に関する相談窓口を設け、若手研究者育成のための方策を検討する。
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本年度の活動目標に対し、項目ごとに評価されている。 2. 科研費獲得のサポートや研究指導体制を構築する提言など、取り組みを期待する。

IV. 研究活動・研究環境

担 当： 研究倫理委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 迅速な倫理審査の実施 2. 現行の倫理指針に沿った審査手続きの遂行 3. 研究倫理に関する研修活動および関連する情報提供の実施
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今年度は全体で 21 件の研究倫理審査申請があった。各申請に対しては、事務局を担当している財務室スタッフおよび委員長が申請書類等を確認しているが、申請者本人の事前チェックが不十分なものも多く、昨年度同様その対応に相当の時間を要した。よって次年度は、チェックリストの適切な使い方についてさらに周知徹底させる必要があると思われる。 2. 現行の倫理指針「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に合わせた委員会規程の改正を昨年度末に実施し、委員会構成員の変更（学外委員の登用）および迅速審査手続きの導入、委員会審議事項への利益相反の明記などを盛り込んだ新しい委員会規程の下で業務を遂行した。 <p style="margin-left: 2em;">なお、一昨年度までは本委員会に予算は付かなかったが、学外委員の導入に伴いその人件費が発生し、また年一回の研修会の機会確保が現行の倫理指針で定められているため、そのための講師招聘のための経費等を昨年度から予算とし計上している。</p> 3. 従来同様、年度始めの早い時期に、本学での研究倫理審査申請の手続き等の研修会を実施し、研修会参加者には研修を受けた旨の修了書を発行した。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 従来通りの迅速な研究倫理審査を実施すること。 2. 国の倫理指針に基づきながら委員会業務を遂行すること。研究倫理に関する研修会の実施や、研究倫理に関する幅広い情報提供の実施。 3. 学術振興委員会等、他の委員会とも連携しながら、関係する情報の共有を図ること。
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本年度の活動目標に対し、項目ごとに評価されている。 2. 本年度十分に実施できなかった事項を次年度への課題として推進していただきたい。 3. 他の委員会との連携を推進していただきたい。

V. FD活動等

担 当： FD委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>本学の教育理念ならびに教育目標に基づき、教員の自主的・自律的な教育改善を支援する活動をととして、「教育の質保証」の向上を図る。</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. FD研修会の企画および運営</p> <p>第1回は、2016年度第1回FD研修会のアドバンス版として、学修に困難のある学生への対応を事例に基づくシミュレーション演習で学ぶ研修会「学生の能力を最大限引き出す支援－合理的配慮の視点から－Part 2」を2017年4月25日（火）に開催し、44名の教員が参加した。</p> <p>時間超過という反省点はあるが、昨年度の概論を踏まえて、シミュレーションにより具体的な対応を学べた点は評価できる。</p> <p>第2回は、東海大学文学部心理・社会学科の有沢孝治准教授を招聘し、「最近の大学生の姿と学生対応－グループワークにおける学生に受入れやすい指導－」と題して2018年1月31日（水）に開催し、49名の参加を得た。</p> <p>開始時間を早くしてほしいとの意見はあったが、内容については、今後の授業や学生の関わり方に活用できそうだという意見が多く、満足度の高い研修会が開催できた。</p> <p>2. 学生による授業評価アンケートの実施</p> <p>自由記載について、調査本来の目的に適った回答が得られるよう、アンケート用紙に「よかった点」「改善してほしい点」「その他、意見・要望」の欄を設けた。あわせて「結果集計表」に教員がコメントを記載する方法とフォーマットも変更し、科目責任者が回答が必要と判断した内容についてのみ、その回答とともに「自由記載に対するコメント欄」に記載するようにした。これに伴い、結果に対する学生からの質問・意見等をTurn a v iを利用して受け付けた。</p> <p>実施主体がFD委員会に移管され、新方式2年目となった本年は、昨年度に見出された課題の改善を図ることができ、おおむね順調に実施できた。</p> <p>3. 教員間の授業参観の試行</p> <p>2017年度後期開講科目を対象に授業参観を試行した。申し込みは栄養学科教員3名、助産研究科教員4名、非常勤講師1名からあり、栄養学科開講科目で6科目8件、助産研究科で4科目4件の合計12件を実施した。参観者の感想から、自身の担当科目とのつながりの確認や授業方略を学ぶという目的がおおむね達成されたことが窺えた。試行段階ではあるが、教育改善支援活動の新たな取り組みとして実施できたことは評価できる。</p> <p>4. 委員の研修会参加</p> <p>2017年度は、希望するテーマの研修会の開催が少なく、また、日程調整が困難だったことから参加を見送った。代替として、北大等近隣で開催される研修会の情報提供を、随時学内LAN掲示板を通じて行った。</p>
<p>次年度への課題</p>	<p>1. 2017年度第2回FD研修会の内容に関連付け、グループワークの効果的な導入に関する研修会を行う。</p> <p>2. 教員間の授業参観の試行を2018年度前期まで期間延長し、後期に1年間の実施状況を分析・検討して2019年度からの本実施に向けた準備を整える。</p>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>1. 学修に困難のある学生への対応を事例にしたFD講演会はシミュレーション形式での研修会で、具体的な対応を学ぶことができたことが評価される。最近の大学生の姿と学生対応に関する講演会もup to dateな話題であり、教育改善に役立つものと思われる。</p> <p>2. 授業評価アンケート・教員間の授業参観など、現在行っている試みをさらに発展させ、学生支援に役立てることを期待する。</p>

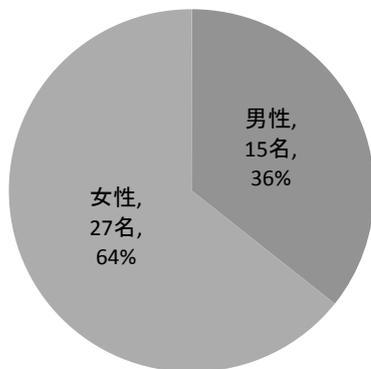
VI. 社会貢献

担 当：地域連携等委員会

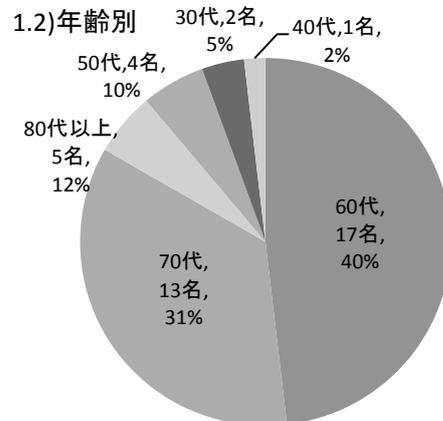
<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2017 年度天使大学・北海道薬科大学公開講座の実施及び 2018 年度公開講座の企画 2. 東区役所との連携事業及び 5 者（東区役所、本学、札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部、専門学校北海道体育大学校、札幌保健医療大学）連携事業の推進 3. 大学間（北海道薬科大学等）の連携事業等の展開 4. 地域・他大学との連携事業の実態把握
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2017 年度天使大学・北海道薬科大学公開講座の実施及び 2018 年度公開講座の企画 北海道薬科大学と連携した公開講座は今年度で 7 回目である。北海道薬科大学と連携することにより、医療、薬学、看護学、栄養学の分野から生活に役立つ情報をわかりやすく解説する講座を実施することが出来た。受講申込者は 2016 年度と比較すると 0.7% 減少したが、アンケート結果（別紙 1）より受講者からの評価は高く、地域住民への有意義な講座を実施することができた。今後も、地域住民にとって有益な企画を立案していく。第 1 回目「子育て支援」は、助産研究科が講師を務めた。 2. 東区役所との連携事業及び 5 者（東区役所、本学、札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部、専門学校北海道体育大学校、札幌保健医療大学）連携事業の推進 <ol style="list-style-type: none"> 1) 東区役所と連携し地域住民対象に 7 件の事業を行った。各事業とも本学教員と学生ボランティアが協力し、本学の質的資源が地域住民に還元されたことは評価できる。今後もこれらの事業に関して継続できるようサポートする。 2) 東区 5 者連携事業として、「ひがしく健康・スポーツまつり」で[天使大の健康塾]の企画・運営を行った。地域住民参加型の企画内容で、本学は学生ボランティア協力のもと、食事バランスチェック・血圧測定・血管年齢測定・骨密度測定を行った。説明が解りやすく参考になったと好評で、今後も委員会として充実した企画・運営行っていく。 3. 大学間（北海道薬科大学等）の連携事業等の展開 大学間連携として、北海道薬科大学が主体で実施している「夕張地域医療体験」への学生参加者の募集・支援を行った。 4. 地域・他大学との連携事業の実態把握 本学と地域・他大学との連携事業の実態を把握し、次年度以降も継続する。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在、連携協定を締結している北海道薬科大学が 2018 年 4 月 1 日に大学統合（北海道科学大学、北海道薬科大学）するに際して連携協定の継続をし、公開講座で北海道科学大学と連携することの利点を生かし、企画、運営について検討する。 2. 5 者連携事業である「ひがしく健康・スポーツまつり」の「天使大の健康塾」について学生の参加を募り、充実した企画にする。 3. 北海道科学大学との連携事業では、夕張地域医療体験への学生参加者の支援、連携内容について北海道科学大学から提案されたことについて検討する。また、他大学との連携等についても検討する。 4. 本学教職員が地域・他大学と連携する事業等を把握し、地域社会へ貢献している現状を整理する。 5. 助産研究科として委員会の地域貢献事業に協力を継続する。
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他大学との連携は非常に重要であり、相互の交流は、学内はもとより地域住民への大きな貢献となっている。特に夕張地域医療体験は学生達の学びの上でも非常に意義深い。 2. 学生達と教員との協力のもと、本学の理念を具現化すべく社会貢献のシステムを構築していただきたい。

1. 次の事項について、差し障りのない範囲でお答え願います。

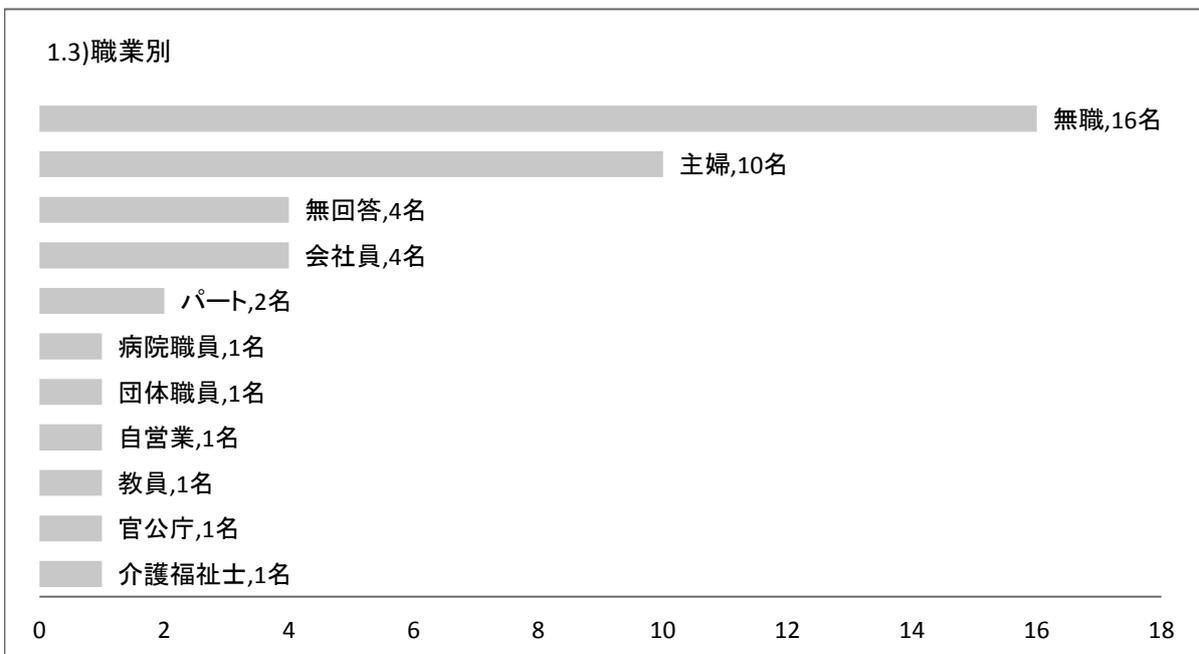
1.1)男女別



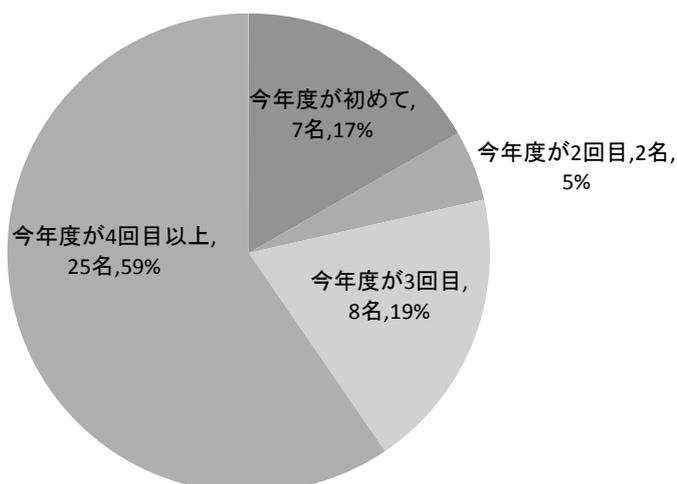
1.2)年齢別



1.3)職業別



2. これまでの参加回数



3. 何で知りましたか。(複数回答)

①	チラシ(北海道新聞折込み)	6人	12.5%
②	掲示ポスター	1人	2.1%
③	天使大学からの郵便物(ダイレクトメール)	31人	64.6%
④	新聞掲載	1人	2.1%
⑤	広報誌(道民カレッジ等)	7人	14.6%
⑥	ホームページ	1人	2.1%
⑦	その他	1人	2.1%
	無回答	0人	0.0%
合 計		48人	100.0%

※その他内訳…無記入

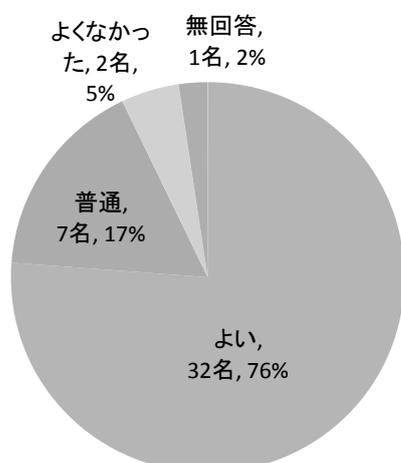
4. ご参加の動機をお聞かせください。(複数回答)

①	テーマに興味があったので	31人	35.2%
②	講師陣に魅力を感じて	0人	0.0%
③	2大学連携の公開講座だから	16人	18.2%
④	通いやすい会場だから	24人	27.3%
⑤	参加しやすい開講時間帯であるため	15人	17.0%
⑥	その他	2人	2.3%
	無回答	0人	0.0%
合 計		88人	100.0%

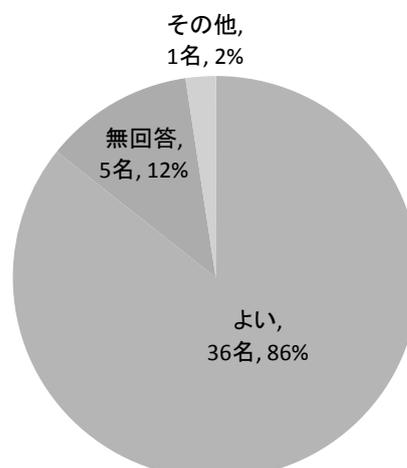
※その他内訳… 受講料が安い
道民カレッジとの連携

5. 今年度の公開講座について感想をお聞かせください。

5.1)全体テーマについて



5.2)回数について



※その他内訳… 10回が良い(1)

VI. 社会貢献

担 当：助産研究科教務委員会（教務）

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 地域の女性や母子の健康推進や子育て支援に関する事業に協力する。 2. 助産ケアおよび看護ケアの質の向上と安全への事業に協力する。</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 地域の女性や母子の健康推進や子育て支援に関する事業に協力する。 1) 本学ヘルスケア開発実践プロジェクトで、「子育てサロン」の開催。 （教授1名、助教1名、院生2名が参加） 2) 講義依頼を受けた市内の中学校で、「性教育授業」を2回、実施 （教授1名、助教2名、院生5名） 3) 実習病院と学内において、妊婦を対象に「出産準備教育」を実施した。</p> <p>2. 助産ケアおよび看護ケアの質の向上と安全への事業に協力する。 1) 一般社団法人北海道助産師会の理事、委員として会の活動の企画・運営への参画 （教授2名、助教1名） 2) 北海道思春期研究会の幹事として活動の企画運営に参画 （教授2名） 3) 全国助産師教育協議会の組織強化委員として、助産師教育の発展・向上のための活動に参画（教授1名）</p> <p>3. 胆振管内の病院（実習病院を含む）の助産師・看護師に向けて、卒後研修の講師依頼を受け、「新人教育」の講義を担当した。（教授1名）</p>
<p>次年度への課題</p>	<p>1. 地域の女性や母子の健康推進や子育て支援に関する事業に協力する。（継続） 2. 助産ケアおよび看護ケアの質の向上と安全への事業に協力する。（継続）</p>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>1. 母子の健康推進・子育て支援に関する事業は今後も継続的に発展させていくことが重要である。 2. 助産ケア・看護ケアの質の向上に関しても、より広範な対象者に向けて発信していくことを期待している。</p>

VII. 国際交流

担当：助産研究科教務委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際助産学実習に向けて、院生の準備・オリエンテーションの充実を図る。 2. マダガスカルの現地助産師のケア能力向上に向けた研修を企画する。 3. 今後の国際助産学実習の地域・実習施設の検討
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際助産学を選択した院生5名は、マダガスカルのアベマリア病院での実習を行うことができた。実習準備として以下のオリエンテーションを行った。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 担当教員は、マダガスカルの実習受入れ施設の担当者と日程や実習内容について電話やメール等で、綿密な打ち合わせを行った。 2) マダガスカルの衛生状況および感染予防について 院生は、オリエンテーション後、主体的に情報収集し、実習の数か月前より計画的に必要な予防接種を受け、実習中にはマラリア予防薬の内服を行っていた。 2) 開発途上国における都市と地方との生活・医療格差と周産期ケアについて 開発途上国で豊富な助産師活動のキャリアを持つ助産師の講義（非常勤講師）昨年から継続 3) マダガスカル、アベマリア病院の周産期ケアおよび実習方法について 実習指導教員としてマダガスカルでの実習に引率の助産師の講義（非常勤講師）と実習前打ち合わせは、昨年から実習前に行っている。これにより、実習前に、現地の状況、実習中の現地での生活や実習方法について、院生がイメージを持って準備できるようになった。 今回の実習では出国直後に、マダガスカルにおいて肺ペストが流行しており、「渡航に際しての注意喚起が厚生労働省より出された」こと知った経緯があった。 幸い、現地の宿泊は修道院のゲストハウスを提供いただき、衛生面や食事についても最良の環境の提供いただき、院生は良好な健康管理ができた。 今回にことから、出発前に、あるいは実習中に、現地の重篤な感染症流行等の情報があつた場合の助産研究科および大学としての危機管理の整備が重要であることを改めて認識した。今後、必要な対応が時機を逸せずできるよう準備していきたい。 2. マダガスカルの現地助産師の研修を計画するには至らなかった。しかし、以下に述べるように、院生の実習が現地の助産師に助産ケアの向上につながる刺激になっていると考えられた。 今回、院生は、実習中に現地の病院で妊婦を対象に母親学級を開催した。妊婦からは好評で、院生帰国後、現地では妊婦から母親学級開催のリクエストの声があると聴いている。すでに10年以上続いている当研究科とアベマリア病院との関係が、より双方の学習機会となるよう考えていきたい。 3. 今年度は、マダガスカル以外の実習地域・施設については、候補としていくつかあがつたのみで具体的な検討には至らなかった。今後の検討課題とする。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安全に配慮した国際助産学実習の実施 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習前の安全教育の実施 2) 危機マニュアルの作成 2. 国際交流の機会への積極的参加・協力 <ol style="list-style-type: none"> 1) 大学がかかわる国際交流関係の情報の把握と協力 2) 助産領域の国際的知見・情報把握と教員・院生への情報提供
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際交流活動は、本学の今後の方向性を考える上でも重要な役割がある。 2. 活動目標として挙げたマダガスカルでの国際交流活動を行ったことは評価される。 3. 現地助産師の研修に至らなかったこと、マダガスカル以外の実習地域・施設についての検討は今後の課題として残っているが、より積極的な活動が期待される。

VIII. 学生生活・就職支援

担当：教務委員会（学生生活・就職）

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活全般への支援 2. 学生の健康支援 3. 学生生活実態調査実施 4. 学生課外活動への支援 5. 就職支援
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活全般への支援 <ol style="list-style-type: none"> 1) メンターシップによる学修・生活支援の充実 入学時から学生一人ひとりにメンター（よき助言者）となる専任教員をおき、学習進捗を確認し、学生の専門職者としての自己課題の発見および成長に必要な指示、方向付け、フィードバック等の支援を行った。また、学生生活全般（健康状況含む）についての相談役となり、支援を行った。特に実習上問題があると思われる学生には、実習前・後に個人面接を実施した。 休学・復学時の前後に個人面談を行うとともに休学期間中の生活についての助言・指導を行った。 2) 学生の経済的支援 奨学金は、天使大学奨学金、天使大学同窓会、日本学生支援機構奨学金、日本助産師会奨学金、北海道看護職員修学資金等を紹介した。また、道内病院の奨学金、地方自治体や団体等の奨学事業も積極的に紹介した。 3) 学生生活ガイドブックの充実 学生生活ガイドブックを発行し、全学生・教職員へ年度初めに配布した。学生生活全般について理解できるよう学生生活ガイドブックの内容の充実に努めた。 4) 事件事故の予防 実習で夜遅く帰宅することが多いため、「防犯ブザー」を全学生に配布した。また、「護身術」講習を実施し、事件・事故に遭わないよう啓発活動を行った。 5) その他 急増するSNSのトラブルと使用上の注意点等について繰り返し、喚起した。 災害傷害保険（日本看護学校協議会共済会の共済制度「WILL」）への加入を義務づけ、実習中等に傷害・賠償・感染事故が発生した場合の対応策をとった。 2. 学生の健康支援 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健相談室の現状 学生の定期健康診断はセット検診（X線撮影、身体計測、聴力、聴打診、血液採取等）を実施した。また、季節性のインフルエンザ感染予防対策としてマタニティサイクル助産ケア統合I実習の開始前に予防接種を奨励し、全員が接種した。 統合I実習中に2名がインフルエンザに罹患し、「Will」で対応した。 2) 学生相談室の現状 学生相談室の相談員を2名体制とし週5日の開室日を設け、月曜日から金曜日までいつでも相談を受けられる体制を継続した。 3. 学生生活実態調査「天使大学大学院生学生生活についての調査」の実施 教育分野・基礎分野2年次生に修了前に学生生活実態調査を実施した。 4. 学生課外活動への支援 1年次生が合唱コンクールに参加した。 5. 就職支援 1年次生対象に接遇ガイダンス、2年次生対象に就職ガイダンスを実施した。就職活動ガイドブックを配布した。就職相談室の活用及び周知を強化した。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活全般の支援については、メンターシップの強化を始め、「天使大学大学院生学生生活についての調査」結果を分析し、よりよい学生生活支援を実施するためさらに検討していく。特に遠隔地実習での学習・生活支援の強化も図っていく。 2. 経済的支援として、各種奨学金紹介のより一層の充実を図るとともに、給付型の奨学金の掘り出しと紹介に努める。 3. 健康支援については、今後も学生相談室、保健相談室の相談員と連携し、更なる充実を目指す。 4. 就職支援については、学生のニーズに応じた支援体制の強化が課題である。 5. 社会問題となっているSNSのトラブルについて、注意喚起を継続していく。
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. メンターを配置した学生への配慮、奨学金等による経済的支援など学生生活全般への支援体制は評価できる。 2. 保健相談室を中心とした健康支援は感染症などに対しては非常に有効だが、近年増加傾向にある精神的なものについてもメンターと共同して対応していく必要があると思われる。

VIII. 学生生活・就職支援

担 当： 宗務委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. カトリックの精神に基づく宗教的行事を企画運営する。 2. 学生にキリスト教精神を理解してもらう。 3. 教職員に建学の精神を理解してもらう。 4. 教育理念に基づく宗教的環境を整備する。 4. カトリックの精神に基づく研修会へ参加する。 5. カトリックセンターとの連携を図る。 6. アッセンブリー・アワーの日程を調整する。
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. カトリックの精神に基づく宗教的行事を企画運営する。 宗務関係行事の運営は、特別なミサである出会いと親睦のゼミ、イースターの集い、死者追悼のミサ、創立記念日のミサ、クリスマスミサ、新年のミサ、退職する教職員へ感謝のミサ、卒業・修了感謝のミサや毎週のミサ、儀式等（マリア様の戴冠式、クリスマスツリー点灯式、クリスマスキャロルの放送、灰の儀式）、実習前のミサや国家試験前のお祈り等を通し、学生・教員にカトリックの精神の理解を深めるようにした。 2. 学生にキリスト教精神を理解してもらう。 1) 入学時と修了前に修養会を企画しミサやお祈りをとおして、また神父・シスターからの講話を聴くことでキリスト教についての理解を促した。 2) 4月に新入生に向け、宗務委員長より、「建学の精神」とキリスト教との関連についての講話を頂いた。 3) 「2017年第33回カトリック医療関連学生セミナー東京」参加への広報をした。 3. 教職員修養会の実施 カトリックセンターが企画し、宗務委員会が協力をして実施した。今年度は天使学園の70周年のお祝いもかねて12月8日に行った。助産研究科は、実習期間中であったため出席可能な教員が出席した。 4. アッセンブリー・アワーの日程を調整。 講義期間中にアッセンブリー・アワーを設けると共にプログラムについて調整を行った。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎週のミサの参加人数が増加するため学生のみならず教員にも周知していく。 2. 修養会の内容の充実についての検討。 3. 学生がキリスト教についての理解を深めるためのアッセンブリー・アワー内容の工夫と企画。 4. 「カトリック医療関連学生セミナー」が大阪で開催されるので、学生の参加を促す。
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宗務委員会が所掌する各種行事は、カトリック大学として院生及び教職員へ建学の精神の理解を促す重要な機会となっていると評価できる。

VIII. 学生生活・就職支援

担 当：キャンパス・ハラスメント対策委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>キャンパスにおける人権意識を成熟させ、大学生活環境を快適なものとするため、ハラスメント問題について啓発・点検・支援・問題解決を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新入学生を対象としたハラスメントに対する理解を深めるための講演会を開催する。 2. 新入生ガイダンス時にガイドライン配付と説明を行う。 3. 教職員を対象とした研修会を実施する。 4. 防止のためのポスター作成等により全学的に啓発活動を行う。
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャンパス・ハラスメントに関する講演会を開催した。 日時：6月13日 13:30～14:30 タイトル：「キャンパス・ハラスメントを考える」 講師：木村晶子氏（藤女子大学 教授） 対象：新入生、教職員 参加状況：看護学科 86名、栄養学科 31名 キャンパス・ハラスメントについて理解を深めることが出来た。次年度も継続的に開催し、さらなる理解を深める。 2. 新入生へのガイダンス及びガイドラインの配付はキャンパス・ハラスメントに関する講演会の中で実施した。 3. 教職員を対象とした研修会の案内がなかったため、実施できなかった。 4. 啓発活動のためにポスターを前年度に引き続き、学内に掲示した。 <p>10月24日に、新規で講演会を開催した。 日時：10月24日 13:30～14:30 タイトル：「気がつかないうちに言葉で傷つけていませんか？」 講師：森 さやか（HTB アナウンサー） 対象：看護・栄養学科4年および栄養学科3年 参加状況：看護学科 34名、栄養学科 17名、教職員その他 32名 今年度新規開催したため参加率が低かったが、非常に好評だったため、今後も継続することとした。</p>
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新入生へのキャンパス・ハラスメントに関する正しい知識や認識を深めるため、講演会などの全員参加に向けて働きかけを行う。 2. 実習前に「気がつかないうちに言葉で傷つけていませんか」の講演を受講でなかった看護学科4年生、及び看護・栄養両学科の新3年生を対象に、次年度も講演会を企画する。 3. 委員の学外研修会参加など、学生からの相談や学内で発生しているハラスメントに、よりの確に対応するスキルを学ぶ機会が必要である。
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講演会が好評であったことは開催の意義があったと評価できる。 2. 参加学生の増加のために、学科や支援教員との連携や、講師の人選なども検討していただきたい。

IX. 図書館

担 当： 図書情報委員会

本年度の活動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 機関リポジトリの運用：収録コンテンツの整備計画策定と実施 2. アクティブ・ラーニングを支援する文献検索ガイダンスの実施 3. 図書館ホームページの維持管理と Facebook 機能の活用 4. 洋雑誌の利用頻度調査結果に基づく見直しと電子ジャーナルへの切り替え 5. 登録図書の計画的除籍及び(譲渡)と遺憾図書の再活用 6. 将来構想等への新棟建築素案の提示 (情報処理室を含む) 7. 防災対策と必要備品等の準備 (情報処理室を含む)
活動内容の評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 機関リポジトリの運用は、天使大学紀要と震災プロジェクトの発刊物掲載にとどまっている。学内の合意を得つつ整備を進める。 2. 文献検索ガイダンスは、1年次早期に実施することで学生の自発的学習の支援となっている。また、授業中でのグループワークや研究など課題を行う上でも学習効果向上に大きく貢献している。 3. 図書館ホームページのリニューアルについては、入試・広報室に追随する形で進めることになり、準備を開始している。 4. 洋雑誌については、利用頻度に基づく見直しを行い、精選されつつある。 5. 過年度登録研究費図書について、新棟建設の機会に除籍できるように、除籍・廃棄を行っているところであるが今後も続けていきたいと考える。 6. 今後の将来構想等、図書館及び情報処理室利用者の利便性に向けて協力していく。 7. 危険管理マニュアルの作成に当たって、全学的な体制作りが必要と思われる。 8. 助産研究科図書購入に際し、院生から要望を取り入れた。 9. 助産研究科院生学習室の掃除・図書点検・整理を行った。 10. 助産研究科図書購入に際し、院生から要望を取り入れた。 11. 助産研究科院生学習室の掃除機を使いやすいものに変え、学生が積極的に掃除・図書点検・整理をしやすいように環境を整えた。
次年度への課題	<p>新棟建設に伴い、助産研究科院生学習室を使用する学生が増加し、机や本棚などの配置も大きく変わることが予想される。助産研究科院生学習室の利用について、学生同士が協力して使用できるような働きかけをしていく。また、掃除・図書点検・整理も徹底して行っていく。</p> <p>次年度も図書館と情報処理室が連携していけるように活動していく。</p>
自己点検 評価委員会 からの評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 早期の文献ガイダンス等により院生の自発的学習の支援となり、課題の取り組みの効果を上げることができたのは評価できる。 2. 機関リポジトリの運用やホームページの活用など情報発信については、利用者のニーズに応じた整備が望まれる。書籍・廃棄等については、適切な処理により有効活用できると良いのではないかと考える。

X. 情報処理システム

担 当： 図書情報委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバシステム、学内 LAN、無線 LAN 環境、図書館貸出パソコンの整備・維持管理 2. 学生の情報処理室、無線 LAN 環境利用促進 3. 学内 LAN 掲示板の更新と利用促進 4. 遠隔地実習や講義、講習会等の実施を支援する Live On システムの活用 5. 情報セキュリティに関する情報収集と対策の継続 6. サーバシステム、ネットワークシステムのリプレースに向けた要件検討
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学内 LAN 環境については学内ネットワークの遅延が多発したため、図書情報委員の協力の元ベンダーと連携して不具合を解消した。今後もベンダーと連携して課題解決を図る。 2. 授業支援システムは支障なく活用された。また、情報処理室の土日開室を継続し、今年度からさらに試験期間も開室して学生の自習時間確保に努めた。無線 LAN 環境についてはキャンパス整備委員会にて実施された学生アンケートより SNS を利用可能にして欲しい、接続方法を簡略化して欲しいといった声が多く聞かれ、今後の検討課題とした。 3. 学内 LAN 掲示板の更新については助産研究科教職員に意見を求めた。今年度後期に更新ページを公開することができ、教職員へ向けた説明会の広報を行った。今後も教職員の意見を参考にしながらブラッシュアップし、利用促進を図ることに務めたい。 4. Live On システムについては、助産研究科の教授会や遠隔地の委員を加えた会議など、付随的な課題にも活用された。 5. 後述の他大学情報処理施設見学の際に、情報セキュリティ対策について情報収集を行った。 他大学においても情報セキュリティ対策の環境整備はあまり進んでおらず、大きな課題と思われる。継続して情報収集を行い、情報セキュリティ対策を強化する必要がある。 6. 2018 年度サーバやネットワークシステムのリプレースに向けて、他大学の情報処理施設を見学し、情報収集を行なった。これを踏まえ、更新に向けた準備を進めている。2018 年度はリプレースと情報処理施設の確保について、適時・適切に対応していきたい。 7. 助産研究科基礎実習、統合実習 I の円滑な実習のため、携帯電話の貸し出しを行った。 8. 助産研究科遠隔地実習に際し、パソコン・プリンターの貸し出しを行った。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバシステム、学内 LAN、無線 LAN 環境、図書館貸出パソコンの整備・維持管理 2. 学生の情報処理室、無線 LAN 環境利用促進 3. 学内 LAN 掲示板のブラッシュアップ 4. 遠隔地実習、大学院講義、講習会等の実施を支援する Live On システムの活用 5. 情報セキュリティに関する情報収集と対策の強化 6. サーバシステム、ネットワークシステムリプレース完了後のシステム安定稼働 7. 新棟建設に係る情報提供や課題検討
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業支援システム、学内 LAN 掲示板等の改善、情報処理室の開室時間の拡大など利用しやすい環境に向けての取り組みが行われていることは評価できる。今後も学生や教職員の声を聴きながらの改善が望まれる。情報セキュリティ対策の強化、院生への教育は、引き続いての課題である。 2. 院生の実習支援のための携帯電話、パソコン、プリンターの貸し出しは、学習の支援となっている。

XI. 施設・設備

担 当：財務室

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 将来構想の検討に伴う校舎整備計画の立案</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 今年度は理事会で承認されている天使学園の「将来構想の策定に当たったの基本的な考え方」に基づき、将来構想について検討を進めた結果、施設設備の整備については、プロポーザル方式により、キャンパスマスタープランの策定及び新棟建設・既存建物の改修を請け負う業者の選定を終えた。</p> <p>現在は請負業者となった清水建設株式会社と株式会社山下ピー・エム・コンサルタントとキャンパスマスタープランを今年度中の完成を目指し策定中である。</p> <p>キャンパスマスタープランでは今後 30 年の施設計画を策定する予定であり、同時に第 1 期工事、第 2 期工事として新棟建設工事と既存棟改修工事の整備計画の検討を進めている。</p> <p>第 1 期工事の新棟建設は 2019 年度の竣工、第 2 期工事の改修工事は 2020 年度の竣工を目指している。</p>
<p>次年度への課題</p>	<p>1. 次年度は第 1 期工事の基本設計、実施設計、契約、着工までを滞りなく進めていく。</p> <p>2. 第 1 期工事は校舎敷地内で授業を行いながらの工事となるため、事故なく工事が進むように安全管理に努める。</p>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>1. 本年度の活動目標に対して評価されている。</p> <p>2. 本年度評価の不十分な項目を、次年度への課題として取り組んでいただきたい。</p>

XII. 管理運営

担 当：事務局長

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 学長のリーダーシップが発揮できる支援体制を整える。</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 学長のリーダーシップが発揮できる支援体制を整える。</p> <p>社会構造が大きく変化する中で、大学が果たすべき役割も変化しており、天使大学の将来の教育体制のあり方に係わる重要事項について、部会を設置し、学長のリーダーシップの下で検討を重ねてきた。</p> <p>これらの事項について、将来構想委員会をはじめ教育研究評議会、教授会及び研究科委員会との円滑な連携に努めながら、引き続き学長のリーダーシップが発揮できるよう環境整備に努めていく。</p>
<p>次年度への課題</p>	<p>1. 学長のリーダーシップが発揮できる支援体制を整える。</p>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>学長のリーダーシップが発揮できる支援体制の構築を期待する。</p>

XIII. 財務

担 当： 財務室

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 中期財務計画の立案 2. 学園創立 70 周年・大学開学 20 周年記念募金活動の推進</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 今年度は理事会で承認されている天使学園の「将来構想の策定に当たっての基本的な考え方」に基づき、将来構想について検討を進めた結果、天使学園中期財務計画案について、理事と意見交換しながら検討している。 財務計画の立案にあたっては、将来構想計画の一環である新棟建設工事などの時期・費用により、外部資金の調達や入学定員、教職員数などの変数を決定していく必要があるため、2018 年度の早い時期の策定を目指していく。</p> <p>2. 学園創立 70 周年・大学開学 20 周年記念募金活動では新棟建設費用や奨学金事業、教育研究環境の改善に役立てていくため、同窓生や教職員、取引企業、実習先などに募金趣意書を送り、募金のお願いをしている。 また、今回の募金から天使大学のホームページ経由で、クレジットカードでの支払いや、コンビニエンスストアでの支払いが可能となるように支払方法を変更した。</p>
<p>次年度への課題</p>	<p>1. 中期財務計画が決定した後もローリングしながら、見直しをしていく。 2. 募金活動は大学開学 20 周年の 2020 年度まで続けていくので、引き続き在学生の保護者も含めて推進していく。</p>
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<p>財務計画や募金活動など、使用目的などを、学生を含めて誰でも理解できるように進めていただきたい。</p>

XIV. 事務組織

担 当：事務局長

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備と適切な運用についての取り組み：各種規程の改正（継続課題） 2. 事務機能の改善及び業務内容多様化に対応するためのシステム活用
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備と適切な運用については、昨年度来迅速な対応を心がけ、適宜改正を行い、学内周知を行ってきた。 2. 事務機能の改善及び業務内容多様化に対応するためのシステム活用については、昨年度学園全体の IT 化推進策として学生支援ポータルサイト(T-NAVI) や出欠管理システム、新会計システム（キャンパスプラン）の導入を実現したが、導入直後は利用上不具合が発生し、関係部署で協力しその改善に努力した。今年度はトラブルも少なく、活用された。また、T-NAVI の導入により、学生への連絡事項は紙による掲示から WEB 連絡に移行し、ペーパーレス化や履修登録については学生による WEB 入力が可能となり、事務作業の負担軽減にもつながっている。一方 Live On は遠隔地の実習・講義や会議に活用され、学生及び教職員に必要不可欠なサービスとなっている。 キャンパスプランについては、各課・室からの入力により本格稼働を目指していたが、帳票類の調整が必要になり、財務室内での運用を当面続けることになった。2018 年度はサーバー等の更新が予定されているため、事務局内で連携して、より迅速で安定的な稼働を目指す。 学内 LAN 掲示板については、各課・室の協力により行事予定、学内諸規程、教授会・委員会報告、補助金に関する案内などの項目を整備して改善を図り、活用されている。 3. その他 点検・評価項目「法人及び大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な事務組織を設けているか。また、その事務組織は適切に機能しているか。」については、三課二室体制で対応し、職員研修会や私大協の研修会、各業務研究会への参加、他大学の視察などを行って、自発的にスキルアップや積極的な課題解決ができるよう対応している。 2018 年度からキャンパス整備の一環として新棟建設が始まるため、さらに各課・室が協力・連携して対処していかなければならない。特に建設時には、使用できなくなる場所が発生するため、既存の場所をより効果的に活用できるよう、教職員が協力体制を取る必要がある。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. システムのより安全で安定的な環境を構築するため、サーバー・システム等の更新や事務局導入システムの円滑な運用を目指す。 2. キャンパス整備事業に事務局として迅速で的確な対応を図る。 3. 事務局としても中・長期計画に基づく具体的対応策を検討する。
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職員の事務作業の軽減に向けて、会計システムの導入を早急に進めていただきたい。 2. 新棟建築時における教職員の協力体制づくりを早急に進めていただきたい。

XV. 自己点検・評価活動

担 当： 自己点検評価委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年報の発行 2. 活動報告会の実施による課題及び次年度への改善点の明確化と学内 PDCA サイクル確立の検討 3. 2018 年度審査に向けた準備の検討 4. 研究業績システム導入及び運用
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護栄養学部・看護栄養学研究科及び助産研究科の年報は、予定通り 6 月末に発刊した。 2. 活動報告会を 2017 年 3 月 18 日に開催した。学内の課題の共有、連携を目指すための報告会は今年度で 5 年を経過し定例化されつつある。しかし、課題の共有を図り全学的 PDCA サイクルによる自己点検評価活動は、未だ十分な活動に至っていないのが現状である。時間的な制約もあるが、多くの教職員が参加し意見交換ができる場となるように工夫が必要と思われる。 3. 2018 年度に大学基準協会から審査を受ける。この準備として、学内の各部署に対して、点検資料の作成を依頼した。 4. 研究業績システムを導入したことで、入力及び公開がスムーズになった。しかし、大学基準協会の研究業績様式に合わせているため、今後入力項目を増やして充実させる必要がある。
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内部質保証の充実を目指した大学の自己点検活動の展開 2. 自己点検評価の構築 3. 年報の作成および報告会の実施（PDCA サイクルとなるものを目指す） 4. 2018 年度審査に向けた準備 5. 研究業績システムの運用と充実
<p>自己点検 評価委員会 からの評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 時間的余裕をもった各部署の点検評価ができるように、自己点検評価委員会の開催時期、自己点検範囲の確認等についての検討が必要と思われる。

自己点検・評価資料

目 次

I. 学事歴	23
II. 2017年度開講科目一覧	25
III. 学生数・奨学金の採用状況	29
IV. 国家試験合格率	30
V. 就職・進学状況	31
VI. 2018年度入学試験結果	33
VII. 教員組織	34
VIII. 事務組織	35
IX. 研究等の活動	36
X. 組織図	37
XI. 会議の開催状況	38
XII. 委員会構成一覧	46
XIII. 委員会の活動報告	47
XIV. 図書館の利用状況	60
XV. 情報処理室の利用状況	61
XVI. 施設・設備の状況	62
XVII. 財務状況	64

I. 2016年度 学事曆 (助産研究科)

【前期】

		日	月	火	水	木	金	土	行事予定等	
4月								1	4日(火)13:00~ 5日(水) 入学式・新入生オリエンテーション 6日(木) 新入生オリエンテーション・2年次ガイダンス・定期健康診断 新入生修養会 18日(火)午後 イースターの集い	
	2	3	4	5	6	7	8			
	9	10	11	12	13	14	15			
	16	17	18	19	20	21	22			
	23	24	25	26	27	28	29			
	30									
5月		1	2	3	4	5	6		8日(月) 基礎2年: 「マタニティイカク独立助産実習」開始(前半グループ) 16日(火)午後 合唱コンクール 23日(火)午後 避難訓練	
	7	8	9	10	11	12	13			
	14	15	16	17	18	19	20			
	21	22	23	24	25	26	27			
	28	29	30	31						
6月					1	2	3		12日(月) 基礎1年: 「マタニティイカク助産々々基礎実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」開始 12日(月) 教育2年: 「臨床助産教育(clinical Teaching)実習」開始 16日(金) 基礎2年: 「マタニティイカク独立助産実習」終了(前半グループ) 26日(月) 基礎2年: 「マタニティイカク独立助産実習」開始(後半グループ)	
	4	5	6	7	8	9	10			
	11	12	13	14	15	16	17			
	18	19	20	21	22	23	24			
	25	26	27	28	29	30				
7月								1		
	2	3	4	5	6	7	8			
	9	10	11	12	13	14	15			
	16	17	18	19	20	21	22			
	23	24	25	26	27	28	29			
	30	31								
8月			1	2	3	4	5		4日(金) 基礎2年: 「マタニティイカク独立助産実習」終了(後半グループ) 10日(木) 基礎1年: 「マタニティイカク助産々々基礎実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」終了 10日(木) 教育2年: 「臨床助産教育(clinical Teaching)実習」終了 21日(月)~25日(金) 基礎1・2年、教育1年: 補講期間・前期定期試験 28日(月) 夏期休業開始	
	6	7	8	9	10	11	12			
	13	14	15	16	17	18	19			
	20	21	22	23	24	25	26			
	27	28	29	30	31					
9月								1	22日(金) 夏期休業終了 25日(月) 基礎2年: 「マタニティイカク助産々々統合実習Ⅱ」開始(第1グループ) 26日(火) 教育2年: 修了感謝のミサ、学位記授与	
	3	4	5	6	7	8	9			
	10	11	12	13	14	15	16			
	17	18	19	20	21	22	23			
	24	25	26	27	28	29	30			

学年	専攻	学内授業期間	臨地実習期間	
1年次	基礎	4月4日(火) ~ 6月9日(金)	基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	6月12日(月) ~ 8月10日(木)
	教育	8月14日(月) ~ 8月25日(金)	—————	—————
2年次	基礎	4月3日(月) ~ 5月5日(金)	独立助産実習(前半) 独立助産実習(後半)	5月8日(月) ~ 6月16日(金) 6月26日(月) ~ 8月4日(金) (期間内1人当り: 原則6週間)
	教育	4月3日(月) ~ 8月25日(金)	臨床助産教育(clinical Teaching)実習	6月12日(月) ~ 8月10日(木) (期間内1人当り: 1週間)

【後期】

		日	月	火	水	木	金	土	行事予定等	
1月	1	2	3	4	5	6	7		6日(金)	基礎2年：「マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ」終了(第1グループ)
	8	9	10	11	12	13	14		10日(火)	基礎2年：「マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ」開始(第2グループ)
	15	16	17	18	19	20	21		20日(金)	基礎2年：「マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ」終了(第2グループ)
	22	23	24	25	26	27	28		23日(月)	基礎2年：「マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ」開始(第3グループ)
	29	30	31							
1月				1	2	3	4		2日(木)	基礎2年：「マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ」終了(第3グループ)
	5	6	7	8	9	10	11		30日(月)～2日(木)	基礎1年： 演習、実習リエンション
	12	13	14	15	16	17	18		6日(月)	基礎1年：「マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅰ」開始
	19	20	21	22	23	24	25			
	26	27	28	29	30					
1月						1	2			
	3	4	5	6	7	8	9		8日(金)	創立記念日
	10	11	12	13	14	15	16		11日(月)	教育1年：「独立助産実習」開始
	17	18	19	20	21	22	23		19日(火)午後	クリスマスの集い
	24	25	26	27	28	29	30		25日(月)	キリスト降誕祭
	31								25日(月)	基礎1・2年：冬期休業開始
1月		1	2	3	4	5	6		5日(金)	基礎1・2年：冬期休業終了
	7	8	9	10	11	12	13			
	14	15	16	17	18	19	20		19日(金)	教育1年：「独立助産実習」終了
	21	22	23	24	25	26	27			
	28	29	30	31					29日(月)	教育1年：冬期休業開始
2月					1	2	3			
	4	5	6	7	8	9	10		9日(金)	教育1年：冬期休業終了
	11	12	13	14	15	16	17		9日(金)	基礎1年：「マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅰ」終了
	18	19	20	21	22	23	24			
	25	26	27	28						
3月					1	2	3		2日(金)	修了前修養会
	4	5	6	7	8	9	10		14日(水)	修了・卒業感謝の会
	11	12	13	14	15	16	17		15日(木)10:00～	修了証書・学位記授与式
	18	19	20	21	22	23	24			
	25	26	27	28	29	30	31			

学年	専攻	学内授業期間	臨地実習期間	
1年次	基礎	9月25日(月)～11月2日(木) 2月13日(火)～3月2日(金)	統合実習Ⅰ	11月6日(月)～12月22日(金) 1月9日(火)～2月9日(金)
	教育	9月25日(月)～12月8日(金) 2月13日(火)～3月2日(金)	独立助産実習	12月11日(月)～1月19日(金) (期間内1人当り：原則6週間)
2年次	基礎	9月25日(月)～12月22日(金) 1月9日(火)～2月16日(金)	統合実習Ⅱ	9月25日(月)～11月2日(木) (期間内1人当り：2週間)

II. 2017 年度開講科目一覧

【助産基礎分野】		2010年～2016年度入学生対象								
区分	授業科目	学年	学期	単位数		授業区分			履修方法及び修了要件	
				必修	選択	講義	演習	実習		
基礎科目	概念形成	助産学概論	1	前	1		1			発展・展開科目は、選択科目3単位以上を含む56単位以上修得すること。なお、選択科目は、①から④のいずれかの領域の単位を必ず修得し、かつ①、②、③の領域を選択した場合、
		助産哲学・倫理Ⅰ	1	後	1		1			
		助産哲学・倫理Ⅱ	2	後		1	1			
		出産の文化	1	前	1		1			
	専門基礎	女性のフィジカルイグザミネーション	1	前	1			1		
		助産薬理学Ⅰ	1	前	1		1			
		助産薬理学Ⅱ	2	前	1		1			
		妊産褥婦乳幼児の栄養	1	前	1		1			
		助産女性学	1	前	1		1			
		助産カウンセリング	1	後	1			1		
		健康教育論Ⅰ	1	前	1		1			
		健康教育論Ⅱ	2	前	1			1		
		助産研究法	1	後	1		1			
		助産機能	助産管理論Ⅰ	1	後	1		1		
	助産管理論Ⅱ		2	前	1		1			
	助産師教育論		2	前	1		1			
	助産師教育方法論		2	後		1	1			
	母子保健行政・財政論		1	後	1		1			
母子保健活動論（疫学・統計を含む）	2		前	1		1				
実践専門科目	マタニティサイクル助産ケア	マタニティサイクル助産ケアⅠ	1	通年	2		1	1		
		マタニティサイクル助産ケアⅡ	1	通年	2		1	1		
		マタニティサイクル助産ケアⅢ	1	通年	2		1	1		
		ハイリスク助産学Ⅰ	1	後	1		1			
		ハイリスク助産学Ⅱ	1	後	1		1			
		ハイリスク助産演習	2	前	1			1		
		独立助産実践概論	2	前	1		1			
	独立助産演習	2	前	1			1			
	マタニティサイクル助産ケア実践	マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅰ	1	前	2				2	
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅱ	1	前	2				2	
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅲ	1	前	2				2	
		マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅰ	1	後	6				6	
マタニティサイクル独立助産実習		2	前	6				6		
マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ	2	後	2				2			
発展・展開科目	発展・展開	子育て支援論Ⅰ	1	後	1	①	1			
		子育て支援論Ⅱ	2	前後		1		1		
		子育て支援論演習	2	後		1		1		
		性教育Ⅰ	2	前	1	②	1			
		性教育Ⅱ	2	前後		1		1		
		性教育実習	2	後		1			1	
		ウィメンズヘルスⅠ	1	後	1	③	1			
		ウィメンズヘルスⅡ	2	前後		1		1		
		ウィメンズヘルス演習	2	後		1		1		
		国際助産学Ⅰ	2	前	1	④	1			
		国際助産学Ⅱ	2	前後		1		1		
国際助産学実習	2	後		2			2			
特別統合研究科目	特別統合課題研究	2	通年	1			1			
合計					53	11	26	15	23	

【助産基礎分野】

2017年度以降入学生対象

区分	授 業 科 目	学年	学期	単位数		授業区分			履修方法及び 修了要件	
				必修	選択	講義	演習	実習		
基 礎 科 目	概念形成	助産学概論	1	前	1		1			履修 了 要 件 は、 展 開 科 目 以 外 の 選 択 科 目 3 単 位 以 上 を 含 む 56 単 位 を 修 得 す る こ と。 な お、 選 択 科 目 は、 ① か ら ④ の い ず れ か の 領 域 の 単 位 を 必 ず 修 得 し、 か つ ①、 ③ の 領 域 を 選 択 し た 場 合 は、 発
		助産哲学・倫理Ⅰ	1	後	1		1			
		助産哲学・倫理Ⅱ	2	後		1	1			
		出産の文化	1	前	1		1			
	専門基礎	女性のフィジカルイグザミネーション	1	前	1			1		
		助産薬理学Ⅰ	1	前	1		1			
		助産薬理学Ⅱ	2	前	1		1			
		妊産褥婦乳幼児の栄養	1	前	1		1			
		助産女性学	1	前	1		1			
		助産カウンセリング	1	後	1			1		
		健康教育論Ⅰ	1	前	1		1			
		健康教育論Ⅱ	2	前	1			1		
		助産研究法	1	後	1		1			
		助産機能	助産管理論Ⅰ	1	後	1		1		
	助産管理論Ⅱ		2	前	1		1			
	助産師教育論		2	前	1		1			
	助産師教育方法論		2	後		1	1			
	母子保健行政・財政論		1	後	1		1			
母子保健活動論（疫学・統計を含む）	2		前	1		1				
実 践 専 門 科 目	マタニティサイクル 助産ケア	マタニティサイクル助産ケアⅠ	1	通年	2		1	1		
		マタニティサイクル助産ケアⅡ	1	通年	2		1	1		
		マタニティサイクル助産ケアⅢ	1	通年	2		1	1		
		ハイリスク助産学Ⅰ	1	後	1		1			
		ハイリスク助産学Ⅱ	1	後	1		1			
		ハイリスク助産演習	2	前	1			1		
		独立助産実践概論	2	前	1		1			
	独立助産演習	2	前	1			1			
	マタニティサイクル 助産ケア実践	マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅰ	1	前	2				2	
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅱ	1	前	2				2	
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅲ	1	前	2				2	
		マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅰ	1	後	6				6	
マタニティサイクル独立助産実習		2	前	6				6		
マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ	2	後	2				2			
発 展 ・ 展 開 科 目	発展・展開	子育て支援論Ⅰ	1	後	1		1			
		子育て支援論Ⅱ	2	前後		①	1	1		
		子育て支援論演習	2	後		①	1	1		
		性教育Ⅰ	2	前	1		1			
		性教育Ⅱ	2	前後		②	1	1		
		性教育実習	2	後		②	2		2	
		ウィメンズヘルスⅠ	1	後	1		③	1		
		ウィメンズヘルスⅡ	2	前後		③	1	1		
		ウィメンズヘルス演習	2	後		③	1	1		
		国際助産学Ⅰ	2	前	1		④	1		
		国際助産学Ⅱ	2	前後		④	1	1		
国際助産学実習	2	後		④	2		2			
特別統合研究科目	特別統合課題研究	2	通年	1			1			
合 計					53	12	26	15	24	

【助産教育分野】

2010年～2014年度入学生対象

区分	授業科目	学年	学期	付与対象科目	単位数		授業区分			履修方法及び修了要件	
					必修	選択	講義	演習	実習		
基礎科目	概念形成	助産学概論	1	前		1		1			修了要件は選択科目1単位以上を含む 56単位を修得すること。
		助産哲学・倫理Ⅰ	1	後		1		1			
		助産哲学・倫理Ⅱ	1	後			1	1			
		出産の文化	1	前		1		1			
	専門基礎	女性のフィジカルイグザミネーション	1	前			1		1		
		助産薬理学Ⅰ	1	前	※	1		1			
		助産薬理学Ⅱ	2	前		1		1			
		妊産褥婦乳幼児の栄養	1	前	※	1		1			
		助産女性学	1	前		1		1			
		助産カウンセリング	1	後			1		1		
		健康教育論Ⅰ	1	前	※	1		1			
		健康教育論Ⅱ	2	前		1			1		
	助産機能	助産管理論Ⅰ	1	後			1	1			
		助産管理論Ⅱ	1	前		1		1			
		母子保健行政・財政論	1	後			1	1			
		母子保健活動論（疫学・統計を含む）	2	前			1	1			
実践専門科目	マタニティサイクル助産ケア	マタニティサイクル助産ケアⅠ	1	通年	※	2		1	1		
		マタニティサイクル助産ケアⅡ	1	通年	※	2		1	1		
		マタニティサイクル助産ケアⅢ	1	通年	※	2		1	1		
		ハイリスク助産学Ⅰ	1	後			1	1			
		ハイリスク助産学Ⅱ	1	後			1	1			
		独立助産実践概論	1	前		1		1			
		独立助産演習	1	前		1			1		
	マタニティサイクル助産ケア実践	マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅰ	1	前	※	2				2	
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅱ	1	前	※	2				2	
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅲ	1	前	※	2				2	
		マタニティサイクル助産ケア統合実習	1	後	※	6				6	
		マタニティサイクル独立助産実習	1	後		6				6	
発展・展開科目	発展・展開	子育て支援論	1	後			1	1			
		性教育	1	前			1	1			
		ウイメンズヘルス	1	後			1	1			
		国際助産学	1	前			1	1			
	助産・看護教育	教育概論	1	後		2		2			
		教育計画(カリキュラム)の原理と展開	1	後		3		2	1		
		教授学習法の理論と展開	1	後		3		2	1		
		教育評価	1	後		3		2	1		
		教育機関の運営と評価	1	後		2		2			
		助産教育実習	2	前		2			1	1	
		臨床助産教育実習	2	前		2			1	1	
	特別統合研究科目	助産教育課題研究	2	前		2			2		
	合計					21	55	13	34	14	20

【助産教育分野】

2015年度以降入学生対象

区分	授業科目	学年	学期	単位数		授業区分			履修方法及び修了要件	
				必修	選択	講義	演習	実習		
助産専門科目	概念形成	助産学概論	1	前	1		1			修了要件は選択科目8単位以上を含む 45単位以上を修得すること。
		助産哲学・倫理Ⅰ	1	後	1		1			
		助産哲学・倫理Ⅱ	1	後	1		1			
		出産の文化	1	前		1	1			
		助産女性学	1	前		1	1			
	助産教育技術	助産カウンセリング	1	後	1			1		
		健康教育論Ⅰ	1	前	1		1			
		健康教育論Ⅱ	2	前	1			1		
		女性のフィジカルイグザミネーション	1	前		1		1		
	助産ケア特論・実践	独立助産実践特論	1	前	1		1			
		独立助産演習	1	前	1			1		
		独立助産実習	1	後	6				6	
		助産薬理学	2	前		1	1			
		ハイリスク助産学Ⅰ	1	後		1	1			
		ハイリスク助産学Ⅱ	1	後		1	1			
	助産機能	助産管理論Ⅰ	1	後		1	1			
		助産管理論Ⅱ	1	前	1		1			
		母子保健行政・財政論	1	後		1	1			
		母子保健活動論（疫学・統計を含む）	2	前		1	1			
	発展・展開	子育て支援論	1	後		1	1			
性教育		1	前		1	1				
ウィメンズヘルス		1	後		1	1				
国際助産学		1	前		1	1				
教育科目	助産・看護教育	教育概論	1	前	2		2			
		教育計画(カリキュラム)の原理と展開	1	通年	2		2			
		教育計画(カリキュラム)の原理と展開演習	1	後	1			1		
		教授学習法の理論と展開	1	通年	2		2			
		教授学習法の理論と展開演習	1	後	1			1		
		教育評価	1	後	2		2			
		教育評価演習	1	後	1			1		
		教育機関の運営と評価	1	後	2		2			
		助産教育(Classroom Teaching)演習	2	前	1			1		
		助産教育(Classroom Teaching)実習	2	前	1				1	
	特別統合研究	助産研究法Ⅰ	1	前	1		1			
		助産研究法Ⅱ	1	後	1			1		
		助産教育課題研究	2	前	2			2		
		合計			37	13	29	12	9	

Ⅲ. 学生数・奨学金の採用状況

在籍者数

(2017年5月1日現在)

所属	学科・専攻	コース名等	収容定員	1年	2年	3年	4年	計	収容定員充足率	
看護栄養学部	看護学科		348	94 (2)	94 (7)	94 (8)	92 (2)	374 (19)	107.5%	
	栄養学科		350	89 (2)	90 (4)	85 (2)	89 (1)	353 (9)	100.9%	
		(うち編入生)	10	—	—	2 (0)	4 (0)	6 (0)	60.0%	
	小計			698	183 (4)	184 (11)	179 (10)	181 (3)	727 (28)	104.2%
助産大学院研究科	助産専攻	助産基礎分野	60	16	—	13	—	—	29	48.3%
		助産教育分野	20	0	—	3	—	—	3	15.0%
	小計			80	16	—	16	—	32	40.0%
看護栄養学大学院	看護学専攻	公衆衛生看護学コース	28	0 (0)	0 (0)	—	—	0 (0)	32.1%	
		精神看護学コース		0 (0)	0 (0)	—	—	0 (0)		
		成人看護学コース		0 (0)	0 (0)	—	—	0 (0)		
		ホスピス緩和ケア看護学コース		2 (0)	0 (0)	—	—	2 (0)		
		保健師コース		2 (0)	5 (0)	—	—	7 (0)		
	栄養管理学専攻	博士前期課程	6	1 (1)	1 (0)	—	—	2 (1)	33.3%	
		博士後期課程	6	0 (0)	0 (0)	2 (0)	—	2 (0)	33.3%	
	小計			40	5 (1)	6 (0)	2 (0)	—	13 (1)	32.5%
合計			818	204 (5)	206 (11)	181 (10)	181 (3)	772 (29)	94.4%	

社会人学生数

(2017年5月1日現在)

所属	学科	1年	2年	3年	4年	計
看護栄養学部	看護学科	0 (0)	4 (0)	4 (0)	4 (0)	12 (2)
	栄養学科	0 (0)	0 (0)	2 (1)	2 (0)	4 (1)
	小計	0 (0)	4 (0)	6 (1)	6 (0)	16 (3)

奨学金の種類と採用数（2017年度）

奨学金の種類		奨学金の金額		貸与・給付の別	採用数
天使大学貸与奨学金		月 額	30,000円または50,000円	無利子貸与	4人
日本学生支援機構奨学金	第一種	月 額	50,000円または88,000円	無利子貸与	9人
	第二種	月 額	50,000円、80,000円 100,000円、130,000円 150,000円	有利子貸与 利率変動3%以内	1人
天使大学同窓会奨学金		年 額	300,000円	無利子貸与	0人
日本助産師会奨学金		月 額	50,000円	無利子貸与	0人
北海道看護職員養成修学資金		月 額	32,000円	無利子貸与。貸与期間にかかわらず、道内に5年以上助産師として勤務した場合返還免除となる	5人
合 計					19人

IV. 国家試験合格率

国家試験合格率（2017年度）

学 部・学 科	国家試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B)	合格率 (%) B/A*100	全国合格率 (%)
天使大学大学院 助産研究科	助産師国家試験	9 人	9 人	100.0%	99.4%
看護栄養学部 看護学科	看護師国家試験	88 人	85 人	96.6%	96.3%
看護栄養学部 看護学科	保健師国家試験	5 人	4 人	80.0%	85.6%
看護栄養学部 栄養学科	管理栄養士国家試験	88 人	77 人	87.5%	95.8%

V. 就職・進学状況

[就職希望者]

分野		助産基礎分野	助産教育分野	計	卒業者に対する割合
就職希望の有無	希望有りの者	9	2	11	100.0%
	希望無しの者	0	0	0	0.0%
計(修了者数)		9	2	11	100.0%

[就職決定者]

分野	助産基礎分野	助産教育分野	計	就職者に対する割合
決定数/決定率	9	2	11	100.0%

[地域別・就職別決定者]

分野		助産基礎分野	助産教育分野	計	就職者に対する割合
地域別	道外	7	1	8	72.7%
	道内	2	1	3	27.3%
	市内(再掲)	(2)	(0)	(2)	(18.2%)
職種別	助産師	9	1	10	90.9%
	教員	0	1	1	9.1%
	上記以外	0	0	0	0.0%

2017年度求人件数・人数（2018年3月31日現在）

〔看護職〕

職 種	件 数				人 数			
	(市内)	道内	道外	件数合計	(市内)	道内	道外	人数合計
看護師	57	126	237	363	1,194	2,028	11,698	13,726
保健師	7	172	25	197	90	361	138	499
助産師	13	47	118	165	106	205	948	1,153
計	77	345	380	725	1,390	2,594	12,784	15,378

〔栄養士職〕

職 種	件 数				人 数			
	(市内)	道内	道外	件数合計	(市内)	道内	道外	人数合計
栄養士	56	85	31	116	617	654	1,116	1,770
管理栄養士	81	141	47	188	767	839	692	1,531
栄養教諭	1	4	1	5	3	6	5	11
食品衛生監視員	1	1	1	2	1	1	30	31
その他 保健医療従事者	12	41	10	51	81	195	750	945
計	151	272	90	362	1,469	1,695	2,593	4,288

〔一般職・その他〕

職 種	件 数				人 数			
	(市内)	道内	道外	件数合計	(市内)	道内	道外	人数合計
一般	54	122	115	237	1,206	1,571	4,039	5,610
合計	282	739	585	1,324	4,065	5,860	19,416	25,276

注1 (市内)は道内の内数

注2 若干名は3とカウントする

注3 保健師・助産師求人人数は人数を明記してある場合以外は3とカウントする

VI. 2018 年度入試結果

2018年度天使大学・大学院入学試験結果

看護栄養学部

* () は、昨年度の数字です

◆看護学科

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
指定校推薦	40	6	(4)	6	(4)	6	(4)	6	(4)	1.0
公募制推薦		53	(61)	53	(61)	35	(36)	35	(36)	1.5
社会人	37	2	(12)	2	(12)	0	(1)	0	(0)	—
一般		296	(291)	293	(285)	85	(73)	36	(41)	3.4
センター利用	10	132	(184)	132	(184)	36	(29)	25	(12)	3.7
総計	87	489	(552)	486	(546)	162	(143)	102	(93)	3.0

◆栄養学科

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
指定校推薦	42	4	(5)	4	(5)	4	(5)	4	(5)	1.0
公募制推薦		43	(58)	43	(58)	38	(37)	38	(37)	1.1
社会人	33	0	(1)	0	(1)	0	(0)	0	(0)	—
一般		89	(100)	89	(100)	45	(44)	44	(34)	2.0
センター利用	10	68	(77)	68	(77)	16	(16)	13	(12)	4.3
総計	85	204	(241)	204	(241)	103	(102)	99	(88)	2.0

◆栄養学科 (3年次編入)

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
	5	4	(4)	4	(4)	3	(2)	3	(2)	1.3

大学院 看護栄養学研究科

◆看護学専攻

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
推薦	14	0	(1)	0	(1)	0	(1)	0	(1)	—
一般 前期		8	(2)	8	(2)	8	(2)	8	(2)	1.0
一般 後期		2	(1)	2	(1)	1	(1)	1	(1)	2.0
総計	14	10	(4)	10	(4)	9	(4)	9	(4)	1.1

◆栄養管理学専攻 博士前期課程

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
一般 前期	3	0	(2)	0	(2)	0	(1)	0	(1)	—
一般 後期		1	(1)	1	(1)	1	(1)	1	(0)	1.0
総計	3	1	(3)	1	(0)	1	(2)	1	(1)	1.0

◆栄養管理学専攻 博士後期課程

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)
一般 前期	2	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	—
一般 後期		3	(0)	3	(0)	3	(0)	3	(0)	1.0
総計	2	3	(0)	3	(0)	3	(0)	3	(0)	1.0

大学院 助産研究科

試験種別	定員 (名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率 (受/合)	
基礎分野	推薦	10	5	(7)	5	(7)	4	(7)	4	(7)	1.3
	前期一般	15	7	(11)	7	(10)	7	(7)	7	(6)	1.0
	前期社会人		4	(2)	4	(2)	4	(1)	4	(1)	1.0
	後期一般	5	1	(4)	1	(4)	1	(2)	1	(2)	1.0
	後期社会人		0	(1)	0	(1)	0	(0)	0	(0)	—
分教 野育	前期	10	1	(0)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	—
	後期		1	(0)	1	(0)	1	(0)	1	(0)	1.0
総計	40	19	(25)	19	(24)	17	(17)	17	(16)	1.1	

VII. 教員組織

教員組織一覽

(2017年5月1日現在)

所 属		教授	准教授	講師	助教	助手	計
大学院	助産研究科	8人	0人	0人	3人	0人	11人
	兼任教員(非常勤講師)	—	—	—	—	—	33人
看護栄養学部	看護学科	5人	9人	6人	8人	4人	32人
	栄養学科	7人	6人	5人	2人	3人	23人
	教養教育科	3人	3人	0人	0人	0人	6人
	計	15人	18人	11人	10人	7人	61人
	兼任教員(非常勤講師)	—	—	—	—	—	93人
合計		23人	18人	11人	13人	7人	198人

専任教員年齢構成

(2017年5月1日現在)

所属	職位	71歳 以上	66歳～ 70歳	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	25歳 以下	計
助産研究科	教授	2	2	1	3	0	0	0	0	0	0	0	8
		25.0%	25.0%	12.5%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	助教	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	3
0.0%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	100%	
計	2	2	1	3	0	1	1	0	1	0	0	11	
	18.2%	18.2%	9.1%	27.3%	0.0%	9.1%	9.1%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	100%	
助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
小計		2	2	1	3	0	1	1	0	1	0	0	11
		18.2%	18.2%	9.1%	27.3%	0.0%	9.1%	9.1%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	100%
看護栄養学部・看護栄養学研究科	教授	0	5	6	1	2	1	0	0	0	0	0	15
		0.0%	33.3%	40.0%	6.7%	13.3%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	4	2	6	3	3	0	0	0	0	18
		0.0%	0.0%	22.2%	11.1%	33.3%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	講師	0	0	0	2	2	3	4	0	0	0	0	11
		0.0%	0.0%	0.0%	18.2%	18.2%	27.3%	36.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	2	1	3	2	2	0	0	10
0.0%		0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	10.0%	30.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100%	
計	0	5	10	5	12	8	10	2	2	0	0	54	
	0.0%	9.3%	18.5%	9.3%	22.2%	14.8%	18.5%	3.7%	3.7%	0.0%	0.0%	100%	
助手	0	0	0	0	1	0	1	1	2	1	1	7	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%	14.3%	28.6%	14.3%	14.3%	100%	
小計		0	5	10	5	13	8	11	3	4	1	1	61
		0.0%	8.2%	16.4%	8.2%	21.3%	13.1%	18.0%	4.9%	6.6%	1.6%	1.6%	100%
合計		2	7	11	8	13	9	12	3	5	1	1	72
		2.8%	9.7%	15.3%	11.1%	18.1%	12.5%	16.7%	4.2%	6.9%	1.4%	1.4%	100%

※定年：65歳

教員の任免・昇任者一覧

(2018年3月31日現在)

学科・科	採用者					昇任者		退職者				
	教授	准教授	講師	助教	助手	講師から准教授	助教から講師	教授	准教授	講師	助教	助手
助産研究科	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	3人	0人	0人	0人	0人
看護学科	1人	1人	0人	4人	3人	3人	1人	2人	1人	0人	2人	3人
栄養学科	3人	2人	0人	0人	3人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人
教養教育科	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
計	5人	3人	0人	5人	6人	3人	1人	6人	2人	0人	2人	3人

VIII. 事務組織

(2017年5月1日現在)

区分	部門	専任職員		常勤嘱託職員	臨時職員	派遣職員	その他	計
			うち管理職					
法人業務系	事務局長	0	0	1	0	0	0	1
	参与	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	1	0	0	0	1
大学業務系	総務課	3	1	5	1	0	1	10
	学務課	5	0	6	0	0	2	13
	図書情報課	4	1	3	0	0	0	7
	財務室	3	1	2	1	0	3	9
	入試・広報室	3	1	1	0	0	0	4
	計	18	4	17	2	0	6	43
合計		18	4	18	2	0	6	44

IX. 研究等の活動

独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業（代表者）の採択状況

		種別	研究代表者	研究課題
1	継続	基盤研究(C)	佐藤 香苗	地域で暮らす認知症高齢者のための新規栄養ケアモデルの構築と応用可能性
2	継続	基盤研究(C)	伊織 光恵	ダウン症のある女子の母親が行う初経教育の構築
3	継続	基盤研究(C)	鹿内 信善	聴覚障害児の言語活動を充実させる看図アプローチを用いた教材開発・授業開発
4	継続	基盤研究(C)	吉田 礼維子	介護予防システムを推進する保健師の活動強化プログラムの検討
5	新規	基盤研究(C)	松下 真美	ω 3 脂肪酸のヒト褐色脂肪に対する作用とその抗メタボ効果

特別研究費の助成状況

		種別	研究代表者	研究課題
1		特別研究費	高桑 暁子	α デイフェンシンによる早期新生児の腸内細菌叢形成の制御
2		特別研究費	三浦 恵津子	実習指導にstorytellingを導入することで得られた学生の行動変容の分析
3		特別研究費	若山 好美	訪問看護師の地域包括ケアシステムへの関わりの認識とその実態

受託研究等

	種別	代表者	担当者	研究・事業名
1	奨学寄付	松下 真美	—	ヒト褐色脂肪に対するカプシエイト類の効果に関する研究に対する助成
2	奨学寄付	鈴木 純子	—	天使大学看護栄養学部栄養学科および看護栄養学研究科栄養管理栄養学専攻における教育研究の発展の寄与に対する助成
3	受託研究	松下 真美	—	ポリフェノールによるヒト褐色脂肪活性化に関する研究
4	受託研究	松下 真美	—	褐色脂肪組織活性と食後消化管ホルモン動態との関連性評価検討
5	受託事業	山部 秀子	—	コープさっぽろ天使大学連携プロジェクト
6	受託事業	山部 秀子	—	コープさっぽろ配食事業連携
7	共同研究	松下 真美	—	褐色脂肪細胞の糖鎖マーカー探索

その他の活動

分類	活動内容
札幌市東区保健福祉部・東区健康づくり連絡協議会との連携	2017年度は学部学生により「広報さっぽろ東区版及びホームページでのレシピの紹介」、「食育推進ネットワーク事業への参加」、「天使祭での健康相談・地域の健康づくり活動の紹介」、「天使の昼食会」、「若者を対象にした料理教室」、「東区健康づくりフェスティバルの運営協力」など7事業に参加しました。
天使大学、札幌大谷大学、北海道体育大学校、札幌保健医療大学および札幌市東区による地域連携協定	札幌市東区に設置する3大学と1 専門学校および札幌市東区による地域連携協定に基づき、「健康」をテーマに地域住民向けのスポーツまつりを2017年10月22日（日）につど一むで開催し、「天使大の健康塾」というブースで、看護・栄養の学生達が参加者への食事のアドバイスや血圧測定を行いました。

XI. 会議の開催状況

看護栄養学学部教授会

回	開催年月日	審議・報告事項
臨時	2017年4月3日（月）	1. 審議事項 なし 2. 報告事項 1) 2017年度校務分掌・委員会一覧について 2) 2017年度一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験に係る追加合格について 3. 意見聴取事項 なし
1	2017年4月11日（火）	1. 審議事項 なし 2. 報告事項 1) 2017年度アッセンブリー・アワーの実施について 2) 2017年度 イースターの集い、および今後の宗務行事の予定について 3) 2017年度合唱コンクールの実施について 4) 2017年度学校医（内科医・精神神経科医）について 5) 教員の退職について 6) 委員会報告について 3. 意見聴取事項 1) 教員の採用に係る募集大綱について
2	2017年5月10日（水）	1. 審議事項 1) 2018年度看護栄養学部、栄養学科編入学試験、指定校推薦入学試験学生募集要項について 2) 2017年度既修得単位の認定・単位授与について 2. 報告事項 1) 2016年度英語プレイスメントテスト実施結果及び2017年度化学・生物診断テスト実施結果について 2) 休学について 3) 2017年度天使祭について 4) 2017年度革の会役員、部活動団体について 5) 2017年度合唱コンクールについて 6) 2017年度日本カトリック大学連盟総会について 7) 消防訓練について 8) 将来構想の今後の進め方について 9) 委員会報告について 3. 意見聴取事項
3	2017年6月14日（水）	1. 審議事項 なし 2. 報告事項 1) 規程の一部改正について 2) 2017年度 英語プレイスメントテスト 実施結果 3) 学術振興委員会主催の講演会開催について 4) 学業成績優秀者奨励金 対象者について 5) 退学について 6) 在籍者数について 7) 教員の採用について 8) 教員の退職について 9) 委員会報告について 3. 意見聴取事項 1) 学生による授業評価アンケート結果の研究利用について 2) 教員間の授業参観の試行について 3) 教員の採用に係る募集大綱について
4	2017年7月11日（火）	1. 審議事項 1) 非常勤講師の委嘱について 2. 報告事項 1) 2017年度後援会地区懇談会等について 2) 休学について 3) 学生による授業評価アンケート結果利用の取り下げについて 4) 委員会報告について 3. 意見聴取事項 1) 教員の採用に係る募集大綱について
5	2017年9月12日（火）	1. 審議事項 1) 既修得単位の認定・単位授与について 2) 2017年度非常勤講師の委嘱について 2. 報告事項 1) 教職課程の再課程認定に係る課題解決と認定のための日程について 2) 2017年度後期宗務行事予定について 3) 専任教員の新規担当科目について 4) 2017年度前期試験におけるアクシデント等について 5) 2017年度第2回FD研修会の開催について 6) 休学・復学について 7) 2017年度特別研究費の採択状況について 8) 委員会報告について 3. 意見聴取事項 なし

回	開催年月日	審議・報告事項
6	2017年10月10日（火）	1. 審議事項 1) 2017年度非常勤講師の委嘱について 2. 報告事項 1) 2017年度体育祭の実施について 2) 2017年度クリスマス関連行事の予定について 3) 2017年度特別研究費による研究報告会について 4) 専任教員の新規担当科目について 5) 2017年度前期試験におけるアクシデント等について 6) 退学について 7) 在籍者数について 8) 2017年度Food and Life Step-up Ceremonyの実施について 9) 2018年度人事方針について 10) 2017年度海外研修旅行の実施について 11) 委員会報告について 3. 意見聴取事項 なし
7	2017年11月15日（水）	1. 審議事項 1) 2019年度入学試験日程について 2) 2018年度推薦入学試験社会人入学試験及び栄養学科編入学試験の可否判定について 3) 2018年度学事暦(案)について 4) 2019年度入学式日程等について 5) 2018年度非常勤講師の委嘱について 2. 報告事項 1) 2017年度教職員修養会について 2) 2017年度戴帽式の実施について 3) 教員の採用に係る募集大綱の延長について 4) 休学について 3. 意見聴取事項 1) 教員の採用に係る募集大綱について
8	2017年12月12日（火）	1. 審議事項 1) 2018年度非常勤講師の委嘱について 2. 報告事項 1) 実習指導教員の次年度雇用契約について 2) 2018年度大学基準協会の評価申請に係る「点検・評価報告書」作成について 3) 休学の許可について 3. 意見聴取事項 なし
9	2018年1月10日（水）	1. 審議事項 1) 2018年度非常勤講師の委嘱について 2) 「天使大学学則」の一部改正(案)について 3) 「履修規程」の一部改正(案)について 2. 報告事項 1) 教員の採用について 2) 教員の退職について 3) 2017年度カトリックセンター長等の発令について 4) 2017年度2月以降の宗務行事予定について 5) 2017年度海外研修旅行の実施について 6) 休学の許可について 7) 2017年度年報の作成および活動報告会の開催について 3. 意見聴取事項 なし
10	2018年2月14日（水）	1. 審議事項 1) 2018年度一般入試（栄養学科）可否判定 2) 天使大学学則の一部改正について 3) 2018年度非常勤講師の委嘱・変更・取消について 2. 報告事項 1) 2017年度卒業証書・学位記授与式実施要領について 3. 意見聴取事項 1) 教員の採用に係る募集大綱について
臨時	2018年2月16日（金）	1. 審議事項 1) 2018年度一般入学試験（看護学科）の可否判定について 2. 報告事項 1) 教員の採用等について 3. 意見聴取事項 なし
臨時	2018年2月23日（金）	1. 審議事項 1) 2018年度大学入試センター試験利用入学試験の可否判定について 2. 報告事項 1) 入学試験問題の誤記について 3. 意見聴取事項 なし

回	開催年月日	審議・報告事項
臨時	2018年2月27日（火）	1. 審議事項 1) 2017年度卒業判定について 2) 2017年度教職課程修了判定について 3) 2018年度非常勤講師の委嘱について 4) 2018年度科目等履修生の受入れについて 2. 報告事項 1) 専任教員の新規授業科目の担当について 2) 2017年度後期定期試験におけるアクシデントについて 3) 休学・復学について 4) 学長候補者の決定について 5) 専任教員の所属替えについて 6) 2018年度研究科長等の決定について 7) 教員の雇用契約の更新について 8) キャンパス整備に係る学部の学習環境の調整検討について 3. 意見聴取事項 なし
11	2018年3月16日（金）	1. 審議事項 1) 2017年度進級判定について 2) 2018年度既修得単位の認定・単位授与について 3) 教職課程履修規程の一部改正(案)について 4) 2018年度非常勤講師の委嘱および変更について 5) 2019年度入試日程の一部変更について 2. 報告事項 1) 2017年度卒業生の就職状況（2018年3月15日現在）について 2) 2018年度 合唱コンクールの実施について 3) 専任教員の新規授業科目の担当について 4) 教員の退職について 5) 休学・復学・退学の許可について 6) 2018年度入学式の実施要領について 7) 自衛消防訓練について 3. 意見聴取事項 1) 教員の採用に係る募集大綱について

看護栄養学研究科研究科委員会

回	開催年月日	審議・報告事項
1	2017年4月11日（火）	1. 審議事項 1) 2017年度看護栄養学研究科活動目標について 2) 2017年度看護栄養学研究科開講科目一覧（栄養）について 3) 2017年度看護栄養学研究科開講科目一覧（看護）について 2. 報告事項 1) 2017年度校務分掌・委員会一覧について 2) 2017年度会議日程について 3) 2017年度看護学専攻研究計画審査及び発表会の実施について 4) 2016年度看護栄養学研究科活動報告について 5) 2017年度入学生の研究指導教員について 6) 休学者について
2	2017年5月10日（水）	1. 審議事項 1) 2017年度看護学専攻学位論文研究計画書の審査及び指導教員について 2) 2017年度特別講師の委嘱について 3) 2018年度看護栄養学研究科学生募集要項について 4) 2017年度非常勤講師の委嘱取消について 2. 報告事項 1) 2017年度看護学専攻広報活動について 2) 2017年度栄養管理学専攻広報活動予定について 3) 2017年度栄養管理学専攻FD研修会について
3	2017年6月14日（水）	1. 審議事項 1) 2017年度非常勤講師の委嘱について 2. 報告事項 1) 2017年度看護学専攻研究計画書審査及び発表会の実施について 2) 2017年度栄養管理学専攻博士前期課程並びに 博士後期課程学位論文研究計画書について 3) 2017年度看護学専攻学位論文研究計画発表会並びに 栄養管理学専攻学位論文中間発表会の開催について 4) 規程の一部改正について
4	2017年7月11日（火）	1. 審議事項 1) 2017年度看護学専攻学位論文研究計画書の審査及び指導教員について
書面	2017年8月22日（火）	1. 審議事項 1) 2017年度非常勤講師の委嘱について
5	2017年9月12日（火）	1. 審議事項 1) 2017年度特別講師の委嘱について 2) 2017年度実習指導教員の委嘱について 2. 報告事項 1) 論文研究計画書審査願の変更について
臨時	2017年10月25日（水）	1. 審議事項 1) 2018年度一般入学試験（前期）の合否判定について 2) 2017年度学位論文関連スケジュールについて
6	2017年11月15日（水）	1. 審議事項 1) 2017年度看護学専攻課題研究論文（保健師コース）の主査及び副査について 2) 2019年度入学試験日程について 2. 報告事項 1) 2017年度看護学専攻FD研修会について
7	2017年12月12日（火）	1. 審議事項 1) 学位論文発表会（保健師コース）の開催について 2) 2017年度学位論文提出予定者の副査選出について 3) 2018年度専任教員の新規担当科目について 4) 2018年度非常勤講師の委嘱について 5) 2018年度学事暦（案）について 6) 2019年度入学式日程等について
8	2018年1月10日（水）	1. 審議事項 1) 2018年度学事暦の変更について 2) 2018年度専任教員の新規担当科目について 3) 2018年度非常勤講師の委嘱および取消について 4) 2018年度特別講師の委嘱について
臨時	2018年1月24日（水）	1. 審議事項 1) 2018年度一般入学試験（後期）の合否判定について 2) 2017年度学位論文提出者の主査・副査について 3) 学位論文発表会（栄養管理学専攻博士前期課程）の開催について 4) 2018年度非常勤講師の委嘱および取り消しについて 2. 報告事項 1) 2017年度学位論文関連スケジュール（栄養管理学専攻博士前期課程）の変更について

回	開催年月日	審議・報告事項
臨時	2018年2月27日（火）	1. 審議事項 1) 2017年度修了判定について 2) 2018年度長期履修学生申請の許可について 3) 2018年度非常勤講師の委嘱及び変更について 2. 報告事項 1) 2017年度看護栄養学研究科学位論文審査報告書について 2) 2017年度年報（自己点検・評価報告書）について 3) 2018年度専任教員の新規担当科目（看栄研）について 4) 2018年度専任教員の新規担当科目（看護）について 5) 2018年度専任教員の新規担当科目（栄養）について 6) キャンパス整備に係る大学院の学習環境の調整検討について
9	2018年3月16日（金）	1. 審議事項 1) 2019年度入試日程の一部変更について 2) 2018年度看護栄養学研究科目標について 3) 教職課程履修規程の一部改正（案）について 2. 報告事項 1) 教員の退職について

助産研究科教授会

回	開催年月日	審議・報告事項
1	2017年4月12日（水）	1. 審議事項 1) 2018年度助産研究科学生募集要項について 2. 報告事項 1) 2017年度校務分掌・委員会一覧について 2) 休学・復学・退学の許可について 3) 2017年度 イースターの集い、および今後の宗務行事の予定について 4) 2017年度 合唱コンクールの実施について 5) 2017年度 学校医（内科医・精神神経科医）について 3. 意見聴取事項 なし
2	2017年5月17日（水）	1. 審議事項 1) 2017年度非常勤講師の委嘱について 2. 報告事項 1) 2017年度日本カトリック大学連盟総会について 2) 消防訓練について 3) 将来構想の今後の進め方について 3. 意見聴取事項 なし
3	2017年6月8日（木）	1. 審議事項 なし 2. 報告事項 1) 規程の一部改正について 3. 意見聴取事項 1) 教員間の授業参観の試行について
4	2017年7月21日（金）	1. 審議事項 1) 助産研究科入学試験合否判定基準の一部改正について 2. 報告事項 なし 3. 意見聴取事項 なし
5	2017年9月20日（水）	1. 審議事項 1) 2017年度助産教育分野の修了判定について 2. 報告事項 1) 2017年度後期宗務行事予定について 2) 2017年度第2回FD研修会の開催について 3) 休学・退学の許可について 4) 2017年度特別研究費の採択状況について 3. 意見聴取事項 なし
臨時	2017年9月27日（水）	1. 審議事項 1) 2018年度助産基礎分野推薦入学試験の合否判定について 2. 報告事項 なし 3. 意見聴取事項 なし
6	2017年10月11日（水）	1. 審議事項 なし 2. 報告事項 1) 2017年度クリスマス関連行事の予定について 2) 休学の許可について 3. 意見聴取事項 なし
臨時	2017年10月25日（水）	1. 審議事項 1) 2018年度助産研究科入学試験（前期）の合否判定について 2. 報告事項 1) 退学の許可について 3. 意見聴取事項 なし
7	2017年11月15日（水）	1. 審議事項 1) 2019年度入学試験日程について 2) 2018年度追加学生募集について 2. 報告事項 1) 2017年度教職員修養会について 3. 意見聴取事項 なし
8	2017年12月13日（水）	1. 報告事項 1) 2018年度非常勤講師の委嘱について 2. 報告事項 1) 2018年度日本助産評価機構の評価申請に係る「点検・評価報告書」作成について 3. 意見聴取事項 なし

回	開催年月日	審議・報告事項
臨時	2018年1月10日（水）	1. 審議事項 1) 2018年度教員体制について 2. 報告事項 なし 3. 意見聴取事項 なし
9	2018年1月24日（水）	1. 審議事項 1) 2018年度助産研究科入学試験（後期）の可否判定について 2) 2018年度非常勤講師の委嘱について 2. 報告事項 1) 2017年度2月以降の宗務行事予定について 2) 2017年度年報の作成および活動報告会の開催について 3) 退学の許可について 3. 意見聴取事項 1) 教員の採用に係る募集大綱について 2) 2018年度教員の採用について
10	2018年2月21日（水）	1. 審議事項 1) 2018年度天使大学大学院助産研究科学事暦(案)について 2) 2018年度非常勤講師の委嘱について 2. 報告事項 1) 2017年度卒業証書・学位記授与式実施要領について 3. 意見聴取事項 1) 2018年度臨床専任教員の雇用契約更新について
臨時	2018年2月28日（水）	1. 審議事項 1) 2017年度修了判定について 2. 報告事項 1) 専任教員の所属替えについて 2) 学長候補者の決定について 3) 2018年度研究科長等の決定について 4) 教員の昇任について 5) 臨床専任教員の雇用契約の更新について 6) キャンパス整備に係る大学院の学習環境の調整検討について 3. 意見聴取事項 なし
11	2018年3月15日（木）	1. 審議事項 1) 2019年度入試日程の一部変更について 2) 2018年度非常勤講師の委嘱について 3) 2018年度科目等履修生の受入れについて 4) 2018年度授業科目開講期の一部変更について 2. 報告事項 1) 2018年度授業科目担当者について 2) 復学・退学の許可について 3) 教員の退職について 4) 教員の雇用について 5) 2018年度入学式の実施要領について 6) 自衛消防訓練について 3. 意見聴取事項 なし

XII. 委員会構成一覧

2017年度校務分掌 委員会一覧

2017.4.1

教育研究評議会	学長、看護栄養学研究科長、助産研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、図書館長、宗務部長、教務部長、学生部長、事務局長、助産研究科教務委員長
---------	--

教授会	学長、看護学科：菅原・佐藤(昇)・本宿・蝦名・吉田、栄養：進藤・菊池・山口・佐藤(香)・山部、 教養：田島・堀井・川口
-----	--

【看護栄養学部関係】

◎看護学科長：佐藤昇子 ◎栄養学科長：山口敦子 ◎教養教育科長：川口雄一

区分	委員会名	委員長	委員	人数	任期	事務局
常設委員会	教務委員会	川口	教務部長：川口、看護学科長、栄養学科長、(教養教育科長)、 教職課程委員長、看護：大野、栄養：吉田(真)、教養：日時	8	2年	学務課
	学生委員会	勝野	学生部長：勝野、看護：高橋・田中(さ)、栄養：西・岩淵、教養：田島	6	2年	学務課
	宗務委員会	和田	宗務部長：和田、司祭：スレイマン、看護：澤田・臺野、 栄養：勝野・長谷川、教養：小原、助産：三浦、事務局：菊池	9	2年	学務課
	図書情報委員会	菊池	図書館長：菊池、看護：伊藤・小澤、栄養：清水・志賀、教養：田島、 助産：村上、図書情報課長	8	2年	図書情報課
	入試委員会	武蔵	看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、看護：針金、栄養：金澤、 教養：(川口)、入試：広報室長	7	2年	入試 広報室
	広報委員会	菅原	看護：菅原・木津・若山、栄養：岡部・峯岸、教養：日時、 入試：広報室長	7	2年	入試 広報室
	自己点検評価委員会	山部	看護栄養学研究科長、助産研究科長、看護学科長、栄養学科長、 教養教育科長、看護：吉田(礼)、栄養：山部、教養：川口、 助産：園生、事務局長	9	2年	総務課
	FD委員会	佐藤(香)	看護：谷、栄養：佐藤(香)・金澤、教養：(川口)(8/1～鹿内)、 助産：津田	5	2年	総務課
	学術振興委員会	堀井	看護：柴田、栄養：西、教養：堀井、助産：和田	5	2年	図書 情報課
	地域連携等委員会	本宿	看護：本宿・佐々木、栄養：長谷川、教養：小原、助産：今崎	5	2年	学務課
	就職委員会	清水	看護：前田、栄養：岡部、清水、教養：新井	4	2年	学務課
	教職課程委員会	新井	教職科目担当：山部、川口、(8/1～鹿内)、岩淵、新井	5	2年	学務課
	研究倫理委員会	堀井	助産研究科長、看護栄養学研究科長、学長指名：吉田(礼)、鈴木、 堀井、岩間、〔学外：小野滋男、久々湊晴夫〕	8	2年	財務室
	キャンパス・ハラスメント 対策委員会	蝦名	学生部長、看護：蝦名、栄養：山部、教養：田島、助産：和田、 事務局長、職員：平野	7	2年	総務課
	病原体等安全管理委員会	菊池	専門：菊池・岩淵、感染予防：武蔵、学校医：西村	4	2年	財務室
	国際交流委員会	学長	学長、教務部長、学生部長、栄養：岡部、看護：臺野、教養：川口、 看栄研：鈴木、助産：津田、事務局長	9	2年	総務課
特設	学生懲戒委員会	その都度	学生部長、看護： 、栄養： 、教養： 、助産：	5	2年	学務課
時限	カリキュラム検討委員会	武蔵	学長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長(教務部長)、 事務局次長：梅村、学長指名：看護 菅原・大野、 栄養 吉田(真)、宗務部長、教養 日時	10	2年	学務課

名 称	構 成 員
看護:学生支援教員	1年:○木津(秋山)、柴田、前田、小澤、新関、伊織、田中(裕) 2年:○澤田(芦名)、伊藤、谷、横山、中洞、加藤 3年:○若山(中山)、針金、臺野、田中(さ)、矢萩 4年:○高橋(鈴木)、本宿、蝦名、大野、佐々木、重岡 ※ ()はリーダー補佐
栄養:学生支援教員	1年:○岡部、山部、勝野、西、丁 2年:○岩淵、菊池、長谷川、松下、金 3年:○金澤、佐藤、進藤、鈴木、池田 4年:○峯岸、吉田、清水、志賀、高桑 ※ ○はリーダー(看護・栄養共通)

名 称	リーダー	構 成 員
ヘルスケア実践開発プロジェクト	山口	看護:菅原・谷・佐々木 栄養:山口・清水・高桑 助産:今崎

名 称	構 成 員
後援会講演ワーキング	看護:蝦名・新関、栄養:岩淵・松下、教養:小原 事務局:総務課

【大学院看護栄養学研究科関係】

◎研究科長:進藤正信 ◎看護学専攻主任:吉田礼維子 ◎栄養管理学専攻主任:鈴木純子

【大学院助産研究科関係】

◎研究科長:園生陽子			
区分	委員会名	委員長	委 員
委員会等	研究科会議	研究科長	研究科教員
	教務委員会	園生	(講義基礎)今崎、(講義教育)園生、(実習)津田、(学生・就職)今崎三浦、村上
	入試広報委員会	今崎	園生、津田

【理事会関係】

区分	委員会名	委員長	委 員	人数	任期	事務局
常設機関	運営連絡会	理事長	学長、副理事長(2名)、常務理事(総務担当理事)、財務担当理事、カトリックセンター長、研究科長(2名)、看護学科長、栄養学科長、宗務部長、監事:土産田、学内評議員:菅原、園生、岩間、()	13	1年	総務課
	将来構想委員会	理事長	学長、総務担当理事、財務担当理事、宗務部長、図書館長、研究科長(2名)、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、事務局長、理事長指名:松岡理事、本間理事、梅村次長、不動次長	15	1年	総務課
	中期計画検討小委員会	学長	学長、図書館長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、看護:柴田、栄養:清水、教養:日時、事務局長、梅村次長、不動次長	10	1年	総務課
	苦情処理委員会	互選	理事長指名: 理事3名、教職員2名、学外者1名	6		総務課
	懲戒委員会	理事長指名		5		総務課
	ハラスメント防止委員会	互選	理事:小川、本間、松岡、菅原 教員:本宿、堀井 職員:不動	7	2年	総務課
	個人情報保護委員会	互選	理事長、学長、常務理事、理事(理事会選出)菅原、事務局長	5	1年	総務課
	衛生委員会	学長	産業医:中村、衛生管理者:不動、保健師:亀田、看護:小澤、栄養:山部、教養:田島、事務局:豊島	7	2年	財務室

名 称	センター長	構 成 員	人数	任期	事務局
カトリックセンター	理事長任命	センター長:和田、司祭:スレイマン、常務理事:小川、宗務教育担当教員:小原	4 (3)	2年	学務課

XIII. 委員会の活動報告

2017年度 助産研究科教務委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：園生洋子 委員：今崎裕子、津田万寿美、和田サヨ子、須貝麻由美、三浦恵津子、村上歩 計7名</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>13回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度 臨地実習配置について ・2017年度 前期試験・評価日程(案)について ・2017年度 前期定期試験時間割案について ・2017年度 非常勤講師の委嘱について ・2017年度「助産教育分野」修了判定について ・2018年度教育計画(案)について ・2017年度 実習指導教員の委嘱について ・2017年度 後期試験日程について ・2018年度 科目担当者について ・2017年度 実習指導教員の委嘱について ・2018年度 科目担当者および非常勤講師の委嘱について ・2018年度 臨地実習配置について ・2018年度 学事暦について ・2017年度 最終試験(基礎分野)について ・2018年度 予算について ・2018年度 会議日程について ・2017年度 修了判定について ・2018年度 科目等履修生の受入れについて ・2018年度 授業科目担当者一覧について ・2018年4月 オリエンテーションについて ・2018年度 授業科目開講期の一部変更について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休学・復学・退学の許可について ・2017年度 イースターの集い、および今後の宗務行事の予定 ・2017年度 学校医(内科医・精神神経科医)について ・2017年度 合唱コンクール実施要領 ・2017年度 科目担当者について ・2017年度 FD研修会について ・2017年度 実習について ・2017年度 後期時間割について ・2017年度 実習について ・8号館ワックスがけについて ・院生の状況について ・2017年度実習指導教員の委嘱について ・2017年度 実習について ・2018年度予算について ・宿泊施設使用料(独立助産)について ・成績・シラバス入力期間について ・2018年度 教科書購入用リストについて 	

2017年度 入試・広報委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：今崎裕子 委員：園生陽子、津田万寿美</p> <p style="text-align: right;">計3名</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>12回</p>
<p style="text-align: center;">審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度 助産研究科学生募集要項について ・2018年度 助産研究科入学試験 試験問題出題者について ・広報資料「天使大学入学試験に関する情報開示」について ・2017年度 助産研究科オープンキャンパスについて ・2017年度 広報活動に向けた学内勉強会および本学学生への大学院説明会の人選について ・2018年度 助産研究科 パンフレットについて ・新入生アンケートについて ・2017年度 第1回助産研究科オープンキャンパスについて ・2018年度 助産研究科入学試験 合否判定基準について ・看護系大学等へのオープンキャンパス広報について ・大学訪問について ・助産研究科オープンキャンパスについて ・2017年度 助産研究科オープンキャンパスの反省について ・2018年度 助産研究科推薦入学試験について ・2019年度 助産研究科入学試験日程（案）について ・2018年度 助産研究科推薦入学試験 合否判定について ・2018年度 助産研究科前期試験について ・今後の学生募集について ・2018年度 助産研究科前期試験 合否判定について ・2018年度 助産研究科入学試験 追加募集（2月）について ・2018年度 助産研究科広報活動計画について ・2018年度 助産研究科 入試・広報委員会予算について ・2018年度 助産研究科前期試験 合否判定について ・2019年度 助産研究科パンフレットについて ・2018年度 オープンキャンパスについて ・2017年度 年報（入試・広報委員会関係部分）について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産研究科 ポスター・フライヤーについて ・2017年度 助産研究科雑誌等広告について ・2017年度 助産研究科広報活動計画および入試・広報委員会予算について ・2018年度 入学試験日程について ・2018年度 助産研究科入試問題作成スケジュールについて ・東京モノレール広告の掲出取りやめについて ・2017年度 新入生アンケートについて 	

2017年度 宗務委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：和田サヨ子、ケン・スレイマン 委員：澤田優美、臺野美奈子、勝野由美子、長谷川めぐみ、 三浦恵津子、小原琢、菊池 史恵 事務局：学務課（渡邊泰央（第2回委員会（5/18）まで担当）、西村和奈）</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>7回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イースターの集い ・聖堂の生花 ・カトリック医療関連学生セミナー ・毎週のミサ ・クリスマスの集い ・死者追悼のミサ ・教職員修養会 ・2018年度宗務委員会活動計画・予算 ・新年のミサ ・退職する教職員のための感謝ミサ ・修了・卒業感謝のミサ ・自己点検評価報告書 <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出会いと親睦のゼミ ・チャペルアワー ・フランシスコ・ボランティアキャンプ？※委員会内で詳細審議 ・退職者の後任人事 ・修養会 ・クリスマスオリエンテーション ・「学部教授会」、「教育研究評議会」、「将来構想委員会」、「学園運営連絡会」への報告 	

2017年度 図書情報委員会活動報告

委員会組織	委員長：菊池直哉 委員：小澤涼子、伊藤治幸、清水真理、志賀一希、田島忠篤、三浦恵津子、平野敦子 <div style="text-align: right;">計8名</div>
委員会開催数	10回
審議・報告事項	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後援会助成図書選定について(8回) ・購入希望図書の選定について(2回) ・2017年度図書資料費予算配分について ・JDream III、医中誌 Web 版の契約について ・「日本透析医学会雑誌」の購読について ・継続購入図書及び加除式資料等の見直しについて ・国立研究開発法人 科学技術振興機構 抄録情報等利用許諾について ・休学者の図書館及び情報処理室の利用について ・各種ガイドラインの一括展示(配架)について ・天使祭一般開放時の展示及び記念グッズの配布について ・電子化されている紀要について ・老朽集密書架対策としての和洋混配について・院生学習室配架製本洋雑誌の処理について ・学内 LAN 掲示板の更新(リニューアル)について ・学内 LAN 掲示板検討チームの検討状況について ・2017年度後期開閉館予定表(案)について ・雑誌の製本時期の変更について ・北海道新聞データベースの導入について ・図書館資料及び DB に関する課題と対策について ・平成 29 年度 ICT 利用による教育改善研究発表会について ・教育改革 ICT 戦略大会の案内について ・2018 年度洋雑誌継続購読の可否について ・2018 年度購読継続和雑誌の継続可否について ・2018 年度図書館及び情報処理室の活動計画案及び予算案、図書資料費予算配分案について ・2018 年度活動計画案における図書館管理システム及び情報システム、ネットワーク等の更新について ・新着雑誌等の配架方法(配列)の変更について ・2018 年度前期開閉館予定表(案)について ・医書.jp の無料トライアルについて 2017 年度補正予算書の提出について ・電子著作物相互利用事業への参加及び相互利用システムの利用について ・使用できなくなった視聴覚資料及び電子化に伴う紀要冊子体の処理について ・過年度登録済研究費図書の処理について ・2017 年度図書資料費による最終選定について ・2017 年度年報：自己点検・評価報告書—X. 図書館, XI. 情報処理システム— <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用規程案に関する教育研究評議会の結果報告 ・2016 年度蔵書点検結果報告 ・2016 年度図書資料費執行状況(結果報告) ・2017 年度図書資料費執行状況 2018 年度サーバ、ネットワーク更新予算について ・学内 LAN 掲示板への掲載資料について ・天使祭報告 ・文献複写等の受付について ・Web of Science について 	

2017年度 自己点検評価委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：山部秀子 委員：進藤正信、園生陽子、佐藤昇子、山口敦子、川口雄一、吉田礼維子、 岩間久哉 計7名</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>2回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点検・評価報告書の内容の確認について ・点検・評価報告書作成に係る役割分担の確認について ・2018年度点検評価報告書内容精査の分担について 	

2017年度 FD委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：佐藤 香苗 委員：谷 規久子（6月まで）、坂倉 恵美子（7月から）、金澤 康子、川口 雄一（7月まで）、鹿内 信善（8月から）、津田 万寿美</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>9回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度第1回FD研修会について ・2017年度第2回FD研修会開催日およびテーマの希望調査について ・2017年度第2回FD研修会について ・2017年度の学生による授業評価アンケートについて ・学生による授業評価アンケート結果の研究利用について ・2016年度の学生による授業評価アンケート結果の利用可否について ・授業評価アンケート自由記載ならびに結果全体に対するコメントへの質問対応について ・授業評価アンケート自由記載ならびに結果全体に対するコメントへの質問受付のためのフォーマットについて ・2017年度授業評価アンケート報告書について ・教員間の授業参観の試行について ・教員間の授業参観報告書について ・2017年度年報用資料について ・2018年度事業計画及び予算案について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度活動計画および予算について ・看護学科FD委員の交代について ・教養教育科FD委員の交代について ・第2回FD研修会の教授会提案書について ・第1回FD研修会の参加者数とアンケート結果について ・第2回FD研修会の参加者数とアンケート結果について ・学生による授業評価アンケート結果の研究利用について ・学生による授業評価アンケート集計表への科目責任者非常勤講師に対するコメント記入依頼文書について ・前期授業評価アンケート集計結果に対する学生からの質問等について ・前期授業評価アンケートの今後の予定について ・後期授業評価アンケートの今後の予定について ・教員間の授業参観の希望受付に係るアナウンスについて ・教員間の授業参観の申し込み状況について ・教員間の授業参観の実施状況について 	

2017年度 学術振興委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：堀井 泰明 委員：柴田 和恵、西 隆司、和田 サヨ子 計4名</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>8回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度委員会運営について ・2017年度講演会等の企画について ・紀要投稿規程改正案について ・紀要第18巻第1号の原稿募集について ・紀要第18巻第1号の投稿申込みについて ・紀要第18巻第1号の投稿状況と倫理的配慮に関する取扱いについて ・紀要第18巻第2号の原稿募集について ・2017年度講演会等の第2回企画について ・第2回企画検討 ・「天使大学紀要」投稿規程の見直しについて ・執筆要領の見直しについて ・紀要第18巻第1号の査読委員について ・紀要第18巻第1号、第2号の査読委員について ・2017年度特別研究費による研究報告会の開催について ・天使大学紀要の原稿募集時期等の見直しについて ・紀要第18巻第1号の査読結果について ・2018年度活動計画策定のための課題整理について ・2017年度年報：自己点検・評価報告者「IV. 研究活動・研究環境」について ・2017年度委員会報告案 ・特別研究費による研究報告会の役割分担について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費獲得のための講習会について ・紀要第17巻第2号の査読後修正原稿について ・紀要第17巻第2号掲載決定原稿について ・紀要第18巻第2号の応募状況について ・札幌学院大学 室橋春光教授 講演会アンケート結果について ・2017年度特別研究費による研究報告会の案内について：修正版 ・紀要第18巻第1号の査読について ・紀要第18巻第2号の原稿について ・紀要第18巻第2号の査読状況について ・審査留意事項の取り扱いについて 	

2017年度 地域連携等委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：本宿美砂子 委員：佐々木雅彦・長谷川めぐみ・小原琢・今崎裕子</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>7回、書面審議1回（2018年3月7日現在）</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度地域連携等委員会役割分担について ・2017年度委員長不在時の委員長代理について ・2017年度地域連携事業活動の把握と報告書について ・2017年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座実施計画について ・2017年度ひがしく健康・スポーツまつり実施計画について ・第15回東区健康づくりフェスティバル講話内容について ・2017年度北海道薬科大学との連携事業「夕張地域医療体験」実施要項について ・2018年度活動計画および予算について ・2018年度天使大学・北海道科学大学連携公開講座の実施について ・2017年度年報 自己点検・評価報告書について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年度地域連携事業活動報告書について ・2017年度活動計画および予算について ・2017年度区役所と天使大学との年間連携事業について ・2017年度東区5者連携事業について ・「札幌大谷大学層雲峡の鮭プロジェクト」の協力依頼について ・2017年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座実施報告について ・2017年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座意見交換会実施報告について ・2017年度「ひがしく健康・スポーツまつり」実施報告について ・第15回東区健康づくりフェスティバル実施報告について ・「夕張地域医療体験」実施報告について ・2018年度からの北海道薬科大学との連携協定について 	

2017年度 研究倫理委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：堀井泰明 委員：園生陽子、進藤正信、吉田礼維子、鈴木純子、岩間久哉、 小野滋男（学外委員）、久々湊晴夫（学外委員）</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>7回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書類提出締切日、審査の段取り、委員会開催日について ・研究計画の倫理審査（審査件数 21 件） ・院生が代表となる場合の連絡先の記載の仕方について ・市町村長宛ての研究協力依頼文等について ・2018 年度予算について ・2018 年度活動計画について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学における研究計画の倫理審査手続きに関する説明会開催について ・倫理審査終了後の研究計画等の変更届について ・国の新倫理指針に合わせた本委員会の新規程について 	

2017年度 キャンパス・ハラスメント対策委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：蝦名美智子 委員：山部秀子、勝野由美子、田島忠篤、和田サヨ子、平野敦子、岩間久哉 計7名</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>3回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長代理の選任について ・講演会の開催について ・「気が付かないうちに言葉で傷つけていませんか? (仮)」講演会について ・2018年度活動計画書及び予算について ・2018年度アッセンブリーアワーの日程について ・規定の改正案について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度予算について ・2017年度相談窓口の周知について ・ガイドラインの配布について ・講演会の開催について 	

2017年度 助産研究科会議報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：園生洋子 委員：今崎裕子、津田万寿美、和田サヨ子、須貝麻由美、三浦恵津子、村上歩 計7名</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>12回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度各委員会メンバーの確認について ・各教員の担当科目について ・全国助産師教育協議会とオープンキャンパス参加教員について ・2年次生からの新入生歓迎へ、教員からの寄付金額について ・第1回臨床指導者会議の担当・役割について ・基礎分野、2年次生の今後のスケジュールについて ・ポストテストの監督者について ・性教育Ⅱの演習担当について ・基礎実習中（帰校日）のカンファレンス担当について ・国際助産学実習の日程とマナーについて ・基礎分野2年次生の課題研究について ・マタニティサイクル助産ケア基礎実習評価表の検討について ・マタニティサイクル助産ケア統合Ⅰ・Ⅱの実習施設について ・第2回臨床指導者会議議案について ・基礎実習報告会の資料作成について ・基礎実習終了アンケートの検討について ・第1回臨床指導者FD研修会について ・基礎実習評価の締切日程について ・統合実習Ⅰの学生メンバー・担当教員案について ・教育分野2年次生の修了ミサについて ・来年度の教育計画（授業・実習）について ・推薦入試（9/23）の出勤教員について ・第3回の臨床指導者会議の内容と担当について ・統合実習Ⅰの実習要項の見直しについて ・来年度の講義・実習の担当について ・助産研究科、前期入試担当教員について ・新年度生の入学前課題について ・特別統合課題研究の進捗状況について ・助産研究科後期入試の試験監督について ・国家試験合格祈願ミサの日程について ・修了前修養会ミサについて 	

- ・ 修了前修養会ミサの日程について
- ・ 来年度の助産研究科内の科内会議について
- ・ アドミッションポリシー・ディプロマポリシーの内容について
- ・ 第2回臨床者FD研修会のプログラム内容について
- ・ 修了会（出会いと親睦のゼミ）について
- ・ 助産研究科内の来年度の委員・係について
- ・ 第2回FD研修会について
- ・ 第4回臨床指導者会議について
- ・ 3つのポリシーについて

[主な報告事項]

- ・ 基礎実習施設について
- ・ 1. 2年次生へのオリエンテーションについて
- ・ 院生室の掃除機の使用について
- ・ 各委員会からの報告
- ・ 国際助産学実習の日程について
- ・ 教育分野、2年次生の今後のスケジュールについて
- ・ マタニティサイクル助産ケア基礎実習の進捗状況について
- ・ 独立助産学実習の進捗状況について
- ・ 天使病院での今後の実習について
- ・ マタニティサイクル助産ケア基礎実習の進捗状況について
- ・ 第2回（8/18）のオープンキャンパスについて
- ・ 国際助産学実習の日程、担当インストラクターについて
- ・ 基礎実習終了アンケートの集計結果について
- ・ ある基礎分野1年次生との面談結果について
- ・ 健康管理運営委員会からの報告
- ・ 性教育Ⅱの演習について
- ・ 国家試験対策、模試について
- ・ 基礎分野・教育分野の2年次生の就職内定状況について
- ・ 基礎実習評価結果について
- ・ 学内LANの変更について
- ・ 教授会での議事内容について
- ・ 発展展開科目の進捗状況について
- ・ 休学者の状況報告
- ・ 新実習施設の開拓結果について
- ・ 認証評価について
- ・ 統合実習Ⅰのオリエンテーション内容について
- ・ 創立70周年記念式典・記念祝賀会の案内について
- ・ 統合実習Ⅰ、リーブリック評価について
- ・ 統合実習Ⅰの実習進捗状況について
- ・ 国家試験の模試結果について
- ・ 各教科の課題レポートについて

- ・特別統合課題研究の発表について
- ・キャンパス整備打ち合わせ会について
- ・統合実習Ⅰ終了の報告
- ・個人情報漏洩について
- ・実習記録物の提出について
- ・天使病院との実習交渉について
- ・国家試験問題について
- ・休学者・復学者・退学予定者の状況について
- ・統合実習Ⅰのアンケート結果について
- ・とわ助産院へ挨拶の報告
- ・第32回日本助産学会学術集会について
- ・退学者の報告

XIV. 図書館利用状況

2017年度入館者統計

学科・学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看護学科	1,259	1,267	2,360	1,727	960	1,621	2,286	1,355	1,123	1,328	520	103	15,909
栄養学科	550	728	1,114	929	207	490	593	432	489	564	318	60	6,474
助産研究科	187	118	76	39	51	40	85	28	41	48	42	17	772
看護学専攻	50	71	50	41	28	29	33	45	40	8	36	18	449
栄養管理学専攻	14	7	4	8	5	7	3	4	10	3	9	6	80
科目等履修生	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	3
教職員	193	232	221	140	134	146	174	139	136	192	151	142	2,000
学外者	27	41	44	23	29	28	19	31	15	17	12	6	292
合計	2,280	2,464	3,869	2,907	1,415	2,361	3,193	2,035	1,855	2,160	1,088	352	25,979

2017年度図書・視聴覚資料貸出統計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看護学科	512	566	1,001	510	445	678	891	599	444	282	124	51	6,103
栄養学科	184	333	521	264	116	237	267	168	206	91	75	18	2,480
助産研究科	110	81	39	29	41	27	54	18	8	6	9	12	434
看護栄養学 研究科	57	69	37	47	36	31	36	34	31	13	30	22	443
科目等履修生・研究生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教職員	85	105	97	63	74	68	94	74	69	65	67	48	909
学外者	2	15	18	6	11	9	10	9	5	3	2	3	93
合計	950	1,169	1,713	919	723	1,050	1,352	902	763	460	307	154	10,462

XV. 情報処理室の利用状況

年間利用状況

学科・学年 室	看護学科				看護 小計	栄養学科				栄養 小計	各室 計
	1年	2年	3年	4年		1年	2年	3年	4年		
4301室(日中)	1,195	1,851	2,599	3,152	8,797	802	2,869	5,073	2,448	11,192	19,989
4301室(夜間)	315	561	770	1,263	2,909	88	202	519	358	1,167	4,076
4302室(日中)	4,353	2,223	2,353	1,559	10,488	4,204	1,740	4,047	2,060	12,051	22,539
4302室(夜間)	1,067	523	708	515	2,813	1,363	350	625	300	2,638	5,451
総計	6,930	5,158	6,430	6,489	25,007	6,457	5,161	10,264	5,166	27,048	52,055

月別学科学年利用状況

学科・学年 月	看護学科				看護 小計	栄養学科				栄養 小計	各室 計
	1年	2年	3年	4年		1年	2年	3年	4年		
4	556	709	502	900	2,667	571	292	873	489	2,225	4,892
5	726	619	516	830	2,691	781	235	1,487	762	3,265	5,956
6	1,009	546	1,551	806	3,912	791	163	1,276	675	2,905	6,817
7	952	240	441	863	2,496	874	478	559	626	2,537	5,033
8	5	272	309	187	773	12	40	641	394	1,087	1,860
9	322	506	711	440	1,979	469	295	1,837	556	3,157	5,136
10	1,304	601	857	890	3,652	959	308	1,561	472	3,300	6,952
11	798	642	515	881	2,836	699	991	531	453	2,674	5,510
12	557	614	303	542	2,016	457	892	775	491	2,615	4,631
1	633	387	591	71	1,682	791	1,369	390	119	2,669	4,351
2	47	11	54	54	166	50	82	184	110	426	592
3	21	11	80	25	137	3	16	150	19	188	325
総計	6,930	5,158	6,430	6,489	25,007	6,457	5,161	10,264	5,166	27,048	52,055

XII. 施設・設備の状況

大学設置基準との対比 (単位：㎡)

	大学の現有面積	大学設置基準面積	大学設置基準との差 (基準外を除く)
校地面積	30,390	6,910	23,550
校舎面積	14,124	6,402	7,722

校舎内訳

	建設年	経過年数	面積(㎡)	備考
1号館	1976 (S51)	40	937.76	2階建
2号館	1995 (H 7)	21	707.43	2階建 (耐震構造)
3号館	1963 (S38)	53	1,977.01	3階建 (耐震補強済)
4号館	1971 (S46)	45	2,429.06	3階建 (耐震補強済)
5号館	1980 (S55)	36	396.27	2階建
6号館	2000 (H12)	16	2,674.91	6階建 (耐震構造)
7号館	2002 (H14)	14	2,330.13	4階建 (耐震構造)
8号館	2004 (H 7)	12	1,855.69	4階建 (耐震構造)
体育館	1976 (S51)	40	736.52	
中沼グラウンド更衣室	1992 (H 4)	24	79.38	平屋建
計	—	—	14,124.16	

学部・大学院研究科ごとの講義室、演習室等の面積・規模

学部・研究科	講義室・演習室・学生学習室等	室数	総面積(㎡)	専用・共用の別	収容人員(総数)	学生総数	在学生1人当り面積(㎡)	備考
看護栄養学部	講義室	12	1,519	共用	1,223	735	2.01	看護栄養学研究科と共用
	演習室	13	402	共用	245	786	0.52	大学院と共用
	学生学習室	2	288	共用	160	735	0.38	
看護栄養学研究科	講義室	/	/	/	/	/	/	
	学生学習室	2	370	共用	92	17	24.72	助産研究科と共用
助産研究科	講義室	2	227	専用	51	34	4.45	
	学生学習室	1	344	共用	82	51	3.96	看護栄養学研究科と共用
体育館		1	737	/	/	/	/	
講堂		1	737	/	/	/	/	

学部の学生用実験・実習室の面積・規模

分 類	室 名	収容人数	面積 (㎡)	1人当り面積 (㎡)
実験・実習室 (看護学科)	第1看護実習室	100	346	3.46
	第2看護実習室	10	41	4.10
	第3看護実習室	20	46	2.30
	第4看護実習室	10	23	2.30
	第5看護実習室	10	27	2.70
実験・実習室 (栄養学科)	理化学実験室	60	223	3.72
	生理学実験室・微生物学実験室	65	205	3.15
	動物実験室	5	6	1.20
	給食経営管理自習室・実習食堂	130	350	2.69
	第2臨床栄養実習室	60	386	6.43
	官能検査室	10	30	3.00
	食品・調理実験実習室(準備室含む)	60	250	4.28
	第1カウンセリング室	3	8	2.67
	第2カウンセリング室	3	9	3.00
	栄養教育実習室	60	155	2.58
	第1臨床栄養実習室	15	45	3.00
実験・実習室(共通)	和室	10	69	6.90
情報処理室	第1情報処理室	60	113	1.88
	第2情報処理室	56	138	2.46
計		747	2,470	3.32

大学院の学生用実験・実習室の面積・規模

分 類	室数	総面積 (㎡)	収容人数 (総数)	収容人員1人 当りの面積(㎡)	使用研究科等	備考
実習室	17	2,227	624	3.32	看護栄養学研究科	看護栄養学部と共用
実習室	1	174	40	4.35	助産研究科	
計	18	2,401	664	3.37	—	—

XVII. 財務状況

貸借対照表関係の財務比率表 (％)

	分類	比率	評価	算式	本学園	他法人
1	自己資金は充実されているか	純資産構成比率	△	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	83.7	81.2
2		繰越収支差額構成比率	△	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	△2.5	△13.2
3		基本金比率	△	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.0	96.0
4		積立率	△	$\frac{\text{運用資産}}{\text{基本金要組入額}}$	117.8	80.7
5	長期資金で固定資産は賄われているか	固定比率	▼	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資金}}$	84.1	95.2
6		固定長期適合率	▼	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	79.3	86.1
7	資産構成はどうか	固定資産構成比率	▼	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	70.4	77.4
8		有形固定資産構成比率	▼	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	35.2	67.3
9		特定資産構成比率	△	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	34.2	6.0
10		流動資産構成比率	△	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	29.5	22.5
11		減価償却比率（図書を除く）	～	$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{減価償却資産取得額}}$	60.8	50.2
12	負債に備える資産が蓄積されているか	内部留保資産比率	△	$\frac{\text{運用資産} - \text{総負債}}{\text{総資産}}$	47.3	8.7
13		運用資産余裕比率（単位：年）	△	$\frac{\text{運用資産} - \text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	2.8	0.2
14		流動比率	△	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	263.9	222.8
15		前受金保有率	△	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	290.4	302.2
16		退職給与引当特定資産保有率	△	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	91.0	38.0
17	負債の割合はどうか	固定負債構成比率	▼	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	5.0	8.5
18		流動負債構成比率	▼	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	11.1	10.1
19		総負債比率	▼	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	16.2	18.7
20		負債比率	▼	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	19.4	23.0

(注1) 「評価」は△：高い値が良い ▼：低い値が良い ～：どちらともいえない を示す。

(注2) 「他法人」は「今日の私学財政（大学・短期大学編）日本私立学校振興・共済事業団」より全国の保健系学部の平均を抜粋。

事業活動収支計算書関係の財務比率表

(%)

	分類	比率	評価	算式	本学園	他法人
1	経営状況はどうか	事業活動収支差額比率	△	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	3.9	1.4
2		経常収支差額比率	△	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	4.4	0.2
3		教育活動収支差額比率	△	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	4.1	0.0
4	収入構成はどうなっているか	学生生徒等納付金比率	～	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	79.9	53.4
5		寄付金比率	△	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	2.3	3.4
6		補助金比率	△	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	14.5	6.4
7	支出構成は適切であるか	人件費比率	▼	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	64.3	55.0
8		教育研究経費比率	△	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	25.2	34.5
9		管理経費比率	▼	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	6.1	10.0
10		借入金等利息比率	▼	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.0	0.2
11		基本金組入率	△	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	8.1	11.3
12		減価償却費比率	～	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	6.7	7.6
13	収入と支出のバランスは取れているか	人件費依存率	▼	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	80.5	102.9
14		基本金組入後収支比率	▼	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	104.7	111.2

活動区分資金収支計算書関係の財務比率表

(%)

	分類	比率	評価	算式	本学園	他法人
1	経営状況はどうか	事業活動収支差額比率	△	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	14.9	11.5

編集後記：

天使大学大学院助産研究科年報 - 自己点検・評価報告書 - 2017 年度版が発行となりました。

年報は、教育研究活動の現状の活動や課題の評価を教職員間で可視化するシステムづくりの一つとして作成されています。また日本助産評価機構への『自己点検評価報告書』の基礎資料でもあります。

この報告書を土台として、本学における内部質保証システムが確立され、有効に機能させるとともに、今後も大学院助産研究科の課題を全教職員が認識し、課題の改善に向けた活動へと発展する自己点検評価活動を目指したいと思います。

本学の自己点検評価活動について、今後とも忌憚のないご意見等をお寄せいただきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2018 年 7 月

自己点検評価委員会委員長 山部 秀子

2018 年度 自己点検評価委員会

委員長：山部 秀子（栄養学科）

委員：進藤 正信（看護栄養学研究科長）

本宿 美砂子（助産研究科長）

吉田 礼維子（看護学科長）

山口 敦子（栄養学科長）

川口 雄一（教養教育科長）

高木 廣文（看護学科）

岩間 久哉（事務局長）

総務課：上村 俊哉

2017年度

天使大学大学院 助産研究科

年 報

—自己点検・評価報告書—

2018年7月発行

自己点検評価委員会

天使大学

〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1番30号

TEL 011-741-1051 FAX 011-741-1077

<http://www.tenshi.ac.jp>
